

平成25年度
市民自治の実態等に関する調査

報告書

平成26年3月

川崎市

【 目 次 】

第1章 調査の概要

1	調査の目的	3
2	調査対象	3
3	標本抽出	3
4	調査方法	3
5	調査期間	3
6	回収結果	3
7	調査内容	4
8	標本誤差	4

第2章 調査結果の詳細（30～49歳調査）

1	調査結果の要点（30～49歳調査）	7
2	回答者の属性（30～49歳調査）	9
	（1）居住区	9
	（2）年齢	9
	（3）性別	9
	（4）住居形態	9
	（5）家族構成	10
	（6）町内会・自治会への加入状況	11
3	地域に対する関心・課題認識（30～49歳調査）	12
	（1）「地域」の範囲	12
	（2）地域の課題	13
	（3）課題に積極的に取り組むべき主体	15
	（4）課題解決に有効な取組	16
	（5）課題解決のために自身ができること	17
	（6）課題解決のために負担できる時間	17
	（7）課題解決のために負担できる経済的負担	18
4	社会活動・地域活動への参加の状況や認識（30～49歳調査）	19
	（1）社会活動・地域活動に関する情報の入手先	19
	（2）社会活動・地域活動への参加経験	20
	（3）参加経験のある社会活動・地域活動の主催団体	21
	（4）社会活動・地域活動に参加したきっかけ	21
	（5）社会活動・地域活動に参加した目的	22
	（6）社会活動・地域活動への参加状況	22
	（7）活動の頻度	23
	（8）社会活動・地域活動に参加しない理由	23

(9) 参加している社会活動・地域活動	24
(10) 社会活動・地域活動の継続年数	25
(11) 社会活動・地域活動への参加による対価の取得状況	25
(12) 社会活動・地域活動への関心度	26
(13) 関心のある社会活動・地域活動	27
(14) 今後の社会活動・地域活動への参加意向	28
(15) 参加したい社会活動・地域活動の分野	29
(16) 活動を主催する団体に求めるもの	30
(17) どのような対価があれば社会活動・地域活動に参加したいか	30
(18) どのような団体が主催する社会活動・地域活動に参加したいか	31
(19) 誰と一緒になら社会活動・地域活動に参加しやすいか	32
(20) 参加しやすい社会活動・地域活動	33
(21) 参加しやすい活動範囲	34
(22) 地域で活動を行う場合に気軽に使える場所	35
(23) 今後の社会において市民が果たすべき役割	36
(24) 公益性の高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目	37
5 NPO法人などの市民活動団体への認識（30～49歳調査）	38
(1) 働き方・就職等の意向	38
(2) NPO法人など市民活動団体の活動全般についての印象	40
(3) NPO法人など市民活動団体に関する情報の入手先	41
6 寄付などによる団体の活動の支援（30～49歳調査）	41
(1) 行った経験のある団体の活動への支援	41
(2) 今後行いたい団体の活動への支援	42
(3) 経験したことがある社会貢献	43
(4) 今後取り組みたい社会貢献	44
7 余暇・自由時間・趣味などに関する考え方（30～49歳調査）	45
(1) 就業状況	45
(2) 就業形態	46
(3) 日常生活で最も力を入れている活動	47
(4) 日常的な自由時間の使い方（余暇活動）	47
(5) 余暇活動に自由に使える時間	48
(6) 活動にかけている金額（年間）	48
(7) 自由時間が増えたらしてみたい活動	50
8 自由記述欄の内容（30～49歳調査）	51

第3章 調査結果の詳細（50～74歳調査）

1 調査結果の要点（50～74歳調査）	57
2 回答者の属性（50～74歳調査）	59
(1) 居住区	59
(2) 年齢	59

(3) 性別.....	59
(4) 住居形態.....	60
(5) 家族構成.....	61
(6) 町内会・自治会への加入状況.....	62
＜参考＞平成16年度「シニア世代のライフスタイルと生活設計に関する調査」	
との比較について.....	63
3 地域に対する関心・課題認識（50～74歳調査）	63
(1) 「地域」の範囲.....	63
(2) 地域の課題.....	64
(3) 課題に積極的に取り組むべき主体.....	66
(4) 課題解決に有効な取組.....	67
(5) 課題解決のために自身ができること.....	69
(6) 課題解決のために負担できる時間.....	69
(7) 課題解決のために負担できる経済的負担.....	70
4 社会活動・地域活動への参加の状況や認識（50～74歳調査）	71
(1) 社会活動・地域活動に関する情報の入手先.....	71
(2) 社会活動・地域活動への参加経験.....	72
(3) 参加経験のある社会活動・地域活動の主催団体.....	73
(4) 社会活動・地域活動に参加したきっかけ.....	73
(5) 社会活動・地域活動に参加した目的.....	74
(6) 社会活動・地域活動への参加状況.....	74
(7) 活動の頻度.....	75
(8) 社会活動・地域活動に参加しない理由.....	76
(9) 参加している社会活動・地域活動.....	77
(10) 社会活動・地域活動の継続年数.....	77
(11) 社会活動・地域活動への参加による対価の取得状況.....	78
(12) 社会活動・地域活動への関心度.....	78
(13) 関心のある社会活動・地域活動.....	79
(14) 今後の社会活動・地域活動への参加意向.....	80
(15) 参加したい社会活動・地域活動の分野.....	81
(16) 活動を主催する団体に求めるもの.....	82
(17) どのような対価があれば社会活動・地域活動に参加したいか.....	82
(18) どのような団体が主催する社会活動・地域活動に参加したいか.....	83
(19) 誰と一緒になら社会活動・地域活動に参加しやすいか.....	85
(20) 参加しやすい社会活動・地域活動.....	85
(21) 参加しやすい活動範囲.....	86
(22) 地域で活動を行う場合に気軽に使える場所.....	87
(23) 今後の社会において市民が果たすべき役割.....	89
(24) 公益性の高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目.....	90

5	NPO法人などの市民活動団体への認識（50～74歳調査）	92
	（1）NPO法人など市民活動団体の活動全般についての印象	92
	（2）NPO法人など市民活動団体に関する情報の入手先	93
6	寄付などによる団体の活動の支援（50～74歳調査）	93
	（1）行った経験のある団体の活動への支援	93
	（2）今後行いたい団体の活動への支援	95
7	仕事（50～74歳調査）	96
	（1）就業状況（※）	96
	（2）就業形態（※）	97
	（3）仕事をしている主な目的（※）	98
	（4）就労時間（※）	98
	（5）定年の有無（※）	99
	（6）定年退職後の就業継続意向	99
	（7）就業を継続したい期間	100
	（8）仕事を続けたい理由	101
	（9）仕事を続けたくない理由	103
8	余暇・自由時間・趣味などに関する考え方（50～74歳調査）	104
	（1）自由時間が増えた場合の社会活動・地域活動への取組意向	104
	（2）活動参加における重視項目（※）	105
	（3）日常生活で最も長時間行っている活動（※）	106
	（4）活動にかけている金額（年間）（※）	107
9	自由記述欄の内容（50～74歳調査）	109
	（※）平成16年度調査（P64参照）との経年比較を行っている設問を示す。	

第4章 各調査共通の質問に関する全体分析

1	地域に対する関心・課題認識（30～74歳全体分析）	115
	（1）「地域」の範囲	115
	（2）地域の課題	116
	（3）課題解決に有効な取組	117
	（4）課題解決のために負担できる時間	118
	（5）課題解決のために負担できる経済的負担	119
2	社会活動・地域活動への参加の状況や認識（30～74歳全体分析）	120
	（1）社会活動・地域活動に関する情報の入手先	120
	（2）社会活動・地域活動への参加経験	121
	（3）社会活動・地域活動に参加したきっかけ	122
	（4）社会活動・地域活動への参加状況	123
	（5）活動の頻度	124
	（6）社会活動・地域活動に参加しない理由	125
	（7）社会活動・地域活動への参加による対価の取得状況	126
	（8）社会活動・地域活動への関心度	127

(9) 関心のある社会活動・地域活動.....	128
(10) 参加したい社会活動・地域活動の分野.....	129
(11) どのような対価があれば社会活動・地域活動に参加したいか.....	130
(12) 参加しやすい活動範囲.....	131
(13) 地域で活動を行う場合に気軽に使える場所.....	132
(14) 公益性が高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目.....	133

第5章 資料編

1 調査票（30～49調査）.....	137
2 集計表（30～49調査）.....	140
3 自由記述欄の内容（30～49歳調査）.....	165
4 調査票（50～74調査）.....	174
5 集計表（50～74調査）.....	178
6 自由記述欄の内容（50～74歳調査）.....	203

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、30歳から49歳までの子育て世代・プレシニア世代及び50歳から74歳までのシニア世代それぞれにおける、地域活動等に関する興味・意欲、生きがいに関する考え方や生活実態、市民自治意識等について把握することにより、多様な主体の連携による地域課題の解決に向けた取組の検討に活用することを目的とする。

2 調査対象

- (1) 川崎市内在住の30歳から49歳までの男女
- (2) 川崎市内在住の50歳から74歳までの男女

3 標本抽出

平成25年7月31日現在の住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出

4 調査方法

郵送配布郵送回収法

5 調査期間

平成25年8月29日～9月20日

6 回収結果

調査種別	標本数 (A)	有効回収数 (B)	有効回収率 ((B) / (A) × 100)
(1) 30～49歳調査	1,750標本	576票	32.9%
(2) 50～74歳調査	1,400標本	647票	46.2%
計	3,150標本	1,223票	38.8%

※基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。

※本文中の「百分率」は、小数点第2位以下を四捨五入して表示しているため、数値の合計が100%とならない場合がある。

7 調査内容

調査種別	調査内容
(1) 30～49歳調査	回答者の属性 地域に対する関心・課題認識 社会活動・地域活動への参加の状況や認識 NPO法人などの市民活動団体への認識 寄付などによる団体の活動の支援 余暇・自由時間・趣味などに関する考え方 自由記述
(2) 50～74歳調査	回答者の属性 地域に対する関心・課題認識 社会活動・地域活動への参加の状況や認識 NPO法人などの市民活動団体への認識 寄付などによる団体の活動の支援 仕事 余暇・自由時間・趣味などに関する考え方 自由記述

8 標本誤差

この調査の標本誤差（サンプル誤差）は、概ね下表のとおりである。

標本誤差は次の式により得られる。標本誤差の幅は ①比率算出の基数（n）及び ②回答の率（P）によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{2 \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b=標本誤差
 n=比率算出の基数（サンプル数）
 P=回答の比率

回答の比率 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
647	± 3.3	± 4.4	± 5.1	± 5.4	± 5.6
576	± 3.5	± 4.7	± 5.4	± 5.8	± 5.9
500	± 3.8	± 5.1	± 5.8	± 6.2	± 6.3
400	± 4.2	± 5.7	± 6.5	± 6.9	± 7.1
300	± 4.9	± 6.5	± 7.5	± 8.0	± 8.2
200	± 6.0	± 8.0	± 9.2	± 9.8	± 10.0
100	± 8.5	± 11.3	± 13.0	± 13.9	± 14.1

(注1) 上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出した。

(注2) この表は、ある設問の回答者数が647人であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±5.4%以内ということを表す。

第2章 調査結果の詳細（30～49歳調査）

1 調査結果の要点（30～49歳調査）

（1）地域に対する関心・課題認識

ア 「地域」の範囲

「町内会・自治会の範囲」が38.7%で最も高く、次いで「お住まいの区内」（30.7%）、「小学校の校区」（21.2%）となっている【P12 図2-1 参照】。

イ 地域の課題

「治安や防犯、交通安全に不安がある」（31.6%）、「自然災害に対する備えに不安がある」（30.0%）が、いずれも3割以上を占めている。次いで「住民同士の関係が薄れている」（24.8%）、「子育てを地域で支える仕組みが不十分」（21.9%）、「住民同士が交流する場や機会がない（不足している）」（18.6%）となっている【P13 図2-3 参照】。

ウ 課題解決に有効な取組、自身ができること、負担できる時間

課題解決に有効だと感じる取組は、「行政からの支援」が43.7%で最も高く、次いで「地域住民と行政との協力・連携」（39.1%）、「地域住民の意識の向上」（31.4%）、「住民同士の交流の活性化」（30.2%）が上位を占めている【P16 図2-7 参照】。自身ができることは、「お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する」が55.9%で最も高く、次いで「ボランティア活動に参加する」（28.5%）となっている【P17 図2-9 参照】。負担できる時間は、「年25時間未満」が46.6%で最も高く、「負担できる」とした人の合計では、68.3%となっている【P17 図2-10 参照】。

（2）社会活動・地域活動への参加の状況や認識

ア 情報の入手先

「市政だより」が66.1%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板、掲示板」（53.1%）、「フリーペーパー、タウン紙、チラシなど」（42.4%）となっている【P19 図3-1 参照】。

イ 社会活動・地域活動への参加経験、参加したきっかけ

「参加したことがある」が46.2%であるのに対し、「参加したことはない」は52.4%となっている【P20 図3-2 参照】。また、参加したきっかけは、「役員（当番）が回ってきたから」が53.0%で最も高く、次いで「友人・知人の誘いがあったから」（30.5%）、「必要性を感じたから」（20.7%）となっている【P21 図3-5 参照】。

ウ 社会活動・地域活動への参加状況、参加しない理由

「参加している」人が17.0%であるのに対し、「参加していない」人が79.7%となっている【P22 図3-7 参照】。また、参加しない理由は、「きっかけがないから」（51.4%）、「時間がないから」（51.2%）の2つが多数を占めている【P23 図3-11 参照】。

エ 参加している社会活動・地域活動とその継続年数

「町内会・自治会活動」への参加が56.1%で最も高く、次いで「PTA・保護者会としての活動」（44.9%）となっている【P24 図3-13 参照】。また、その継続年数は、「1年未満」の合計が39.7%、「1年以上、3年未満」の合計が21.4%、「3年以上」が37.8%となっている【P25 図3-14 参照】。

オ 参加による対価の取得状況

参加によって「対価を得ていない」人が、継続参加者の92.9%を占めている。一方で、「対価を得ている」場合、活動「1回当たり500円未満」が50.0%となっている【P25 図3-15 参照】。

第2章 調査結果の詳細（30～49歳調査）

カ 社会活動・地域活動への関心度、関心のある活動、参加したい活動分野

関心度は、「どちらともいえない」が38.0%で最も高い。一方、「非常に関心がある」と「やや関心がある」を合わせた「関心がある」人の計は34.9%となっている【P26 図3-16参照】。また、関心のある社会活動・地域活動は、「町内会・自治会活動」が60.2%で最も高く、次いで「ボランティア活動」（48.3%）となっている【P27 図3-18参照】。参加したい活動分野は、「子どもの健全育成」が43.6%で最も高く、次いで「地域安全」（30.9%）、「災害救援（防災など）」（29.2%）、「まちづくりの推進」（28.6%）、「学術、文化、芸術又はスポーツの振興」（22.9%）、「保健、医療又は福祉の増進」（21.5%）となっている【P29 図3-22参照】。

キ どのような対価があれば社会活動・地域活動に参加したいか

「交通費＋昼食代」が40.6%で最も高く、次いで「交通費程度」（27.8%）、「地域で使えるクーポン券」（25.5%）となっている【P30 図3-24参照】。

ク 地域で活動を行う場合に気軽に使える場所

「市民館・区役所」（41.3%）と「町内会館・自治会館」（40.6%）がともに4割を上回っているほか、「小学校・中学校の教室開放」（31.3%）が3割超となっている【P35 図3-33参照】。

ケ 公益性の高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目

「活動費の助成」が65.6%で最も高く、次いで「活動場所の確保」（54.0%）、「情報提供の充実」（46.5%）となっている【P37 図3-37参照】。

（3）NPO法人などの市民活動団体への認識

ア 市民活動団体の活動についての印象

「活動の内容がよく分からない」が55.9%で最も高く、次いで「意識が高い人たちが活動している」（33.9%）、「何となく信用できない」（22.2%）となっている【P40 図4-3参照】。

（4）寄付などによる団体の活動の支援

ア 行った経験のある支援、今後行いたい支援

行った経験のある支援は、「街頭などでの募金活動」が39.4%で最も高く、次いで「寄付付き商品の購入」（24.8%）となっている。一方で、「団体の活動を支援したことはない」も24.8%を占めている【P41 図5-1参照】。今後行いたい支援は、「寄付付き商品の購入」24.3%で最も高く、次いで「街頭などでの募金活動」（19.8%）と「団体が必要としている物の提供」（19.8%）となっている。一方、21.4%が「団体の活動を支援したくない」と回答している【P42 図5-3参照】。

イ 今後取り組みたい社会貢献

「地産地消」が38.0%で最も高く、次いで「フェアトレード商品の購入」（26.2%）、「インターネット寄付」（14.8%）となっている【P44 図5-7参照】。

（5）余暇・自由時間・趣味などに関する考え方

ア 日常的な自由時間の使い方（余暇活動）、自由時間が増えたらしてみたい活動

日常的な自由時間の使い方は、「家族との時間」が58.0%で最も高く、次いで「休息」（46.0%）、「趣味・娯楽」（43.9%）となっている【P47 図6-6参照】。自由時間が増えたらしてみたい活動は、「ボランティア活動」が33.7%で最も高く、次いで「町内会・自治会活動」（20.0%）となっている【P50 図6-12参照】。

2 回答者の属性（30～49歳調査）

（1）居住区

回答者の居住区は、「中原区」（16.0%）が最も高く、次いで「宮前区」（15.1%）、「幸区」（14.8%）、「高津区」（14.6%）、「麻生区」（14.4%）、「多摩区」（13.2%）、「川崎区」（12.0%）となっている。

（2）年齢

回答者の年齢は、「40～44歳」が31.4%で最も高く、次いで「45～49歳」（26.0%）、「35～39歳」（23.1%）、「30～34歳」（19.4%）となっている。

図1-1 居住区

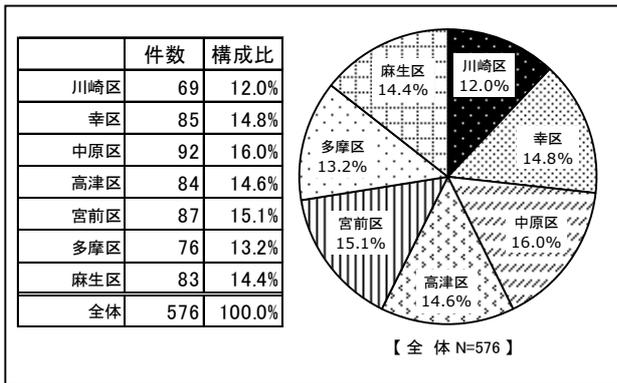
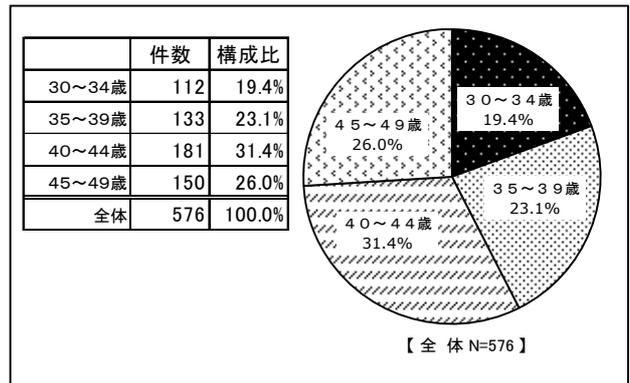


図1-2 年齢



（3）性別

回答者の性別は、「男性」が39.6%、「女性」が59.2%となっている。

（4）住居形態

回答者の住居形態は、「持ち家（戸建、マンション等）」が64.4%で最も高くなっている。

図1-3 性別

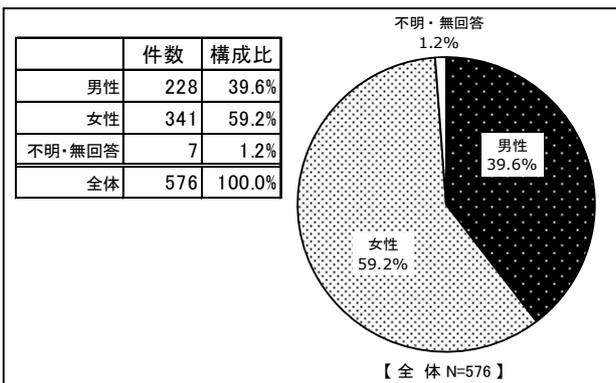
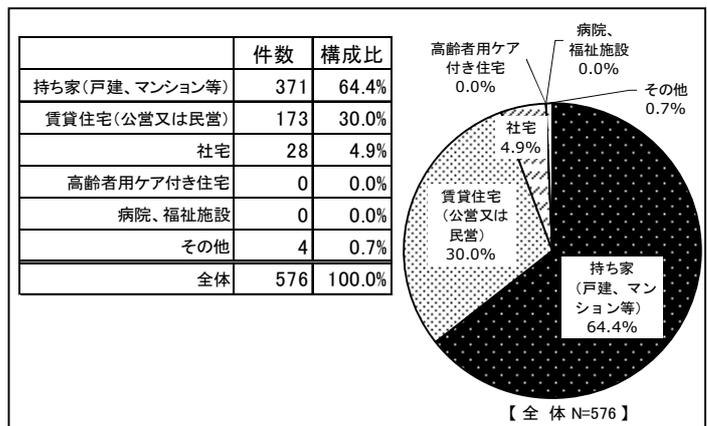


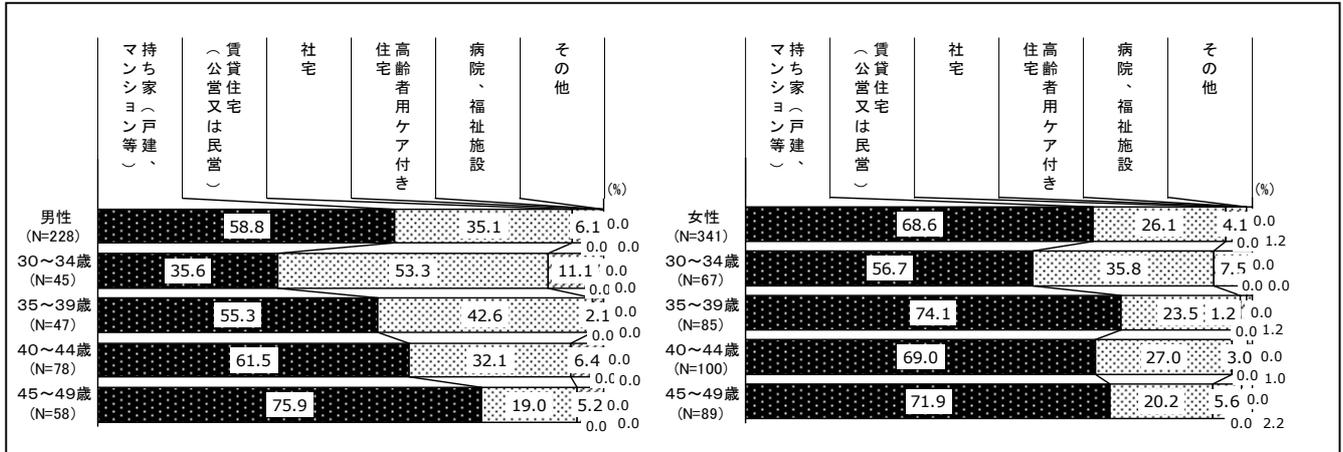
図1-4 住居形態



第2章 調査結果の詳細（30～49歳調査）

性・年代別にみると、「持ち家（戸建・マンション等）」の割合は男性の年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、女性は「35～49歳」で7割前後となっている。

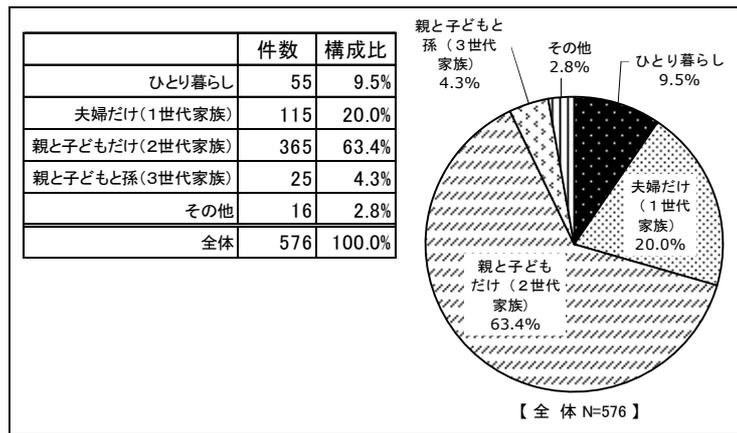
図1-5 居住形態（性・年代別）



(5) 家族構成

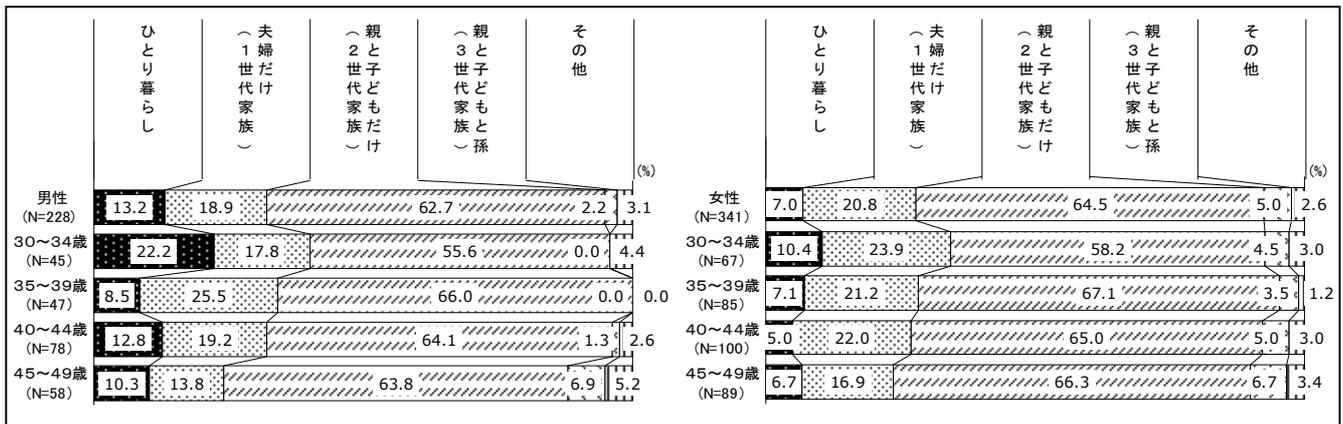
回答者の家族構成は、「親と子どもだけ（2世代家族）」が63.4%を占めている。

図1-6 家族構成



性・年代別にみると、「ひとり暮らし」は「男性」（13.2%）が「女性」（7.0%）よりも6ポイント高く、「男性30～34歳」では2割を超えている。

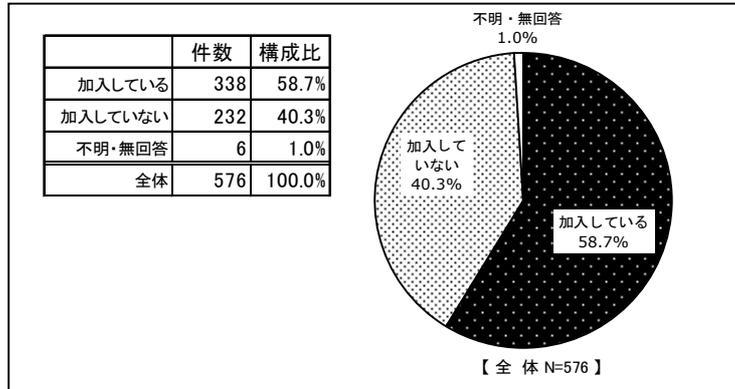
図1-7 家族構成（性・年代別）



（6）町内会・自治会への加入状況

町内会・自治会への加入状況は、「加入している」が58.7%で、「加入していない」（40.3%）を18ポイント上回っている。

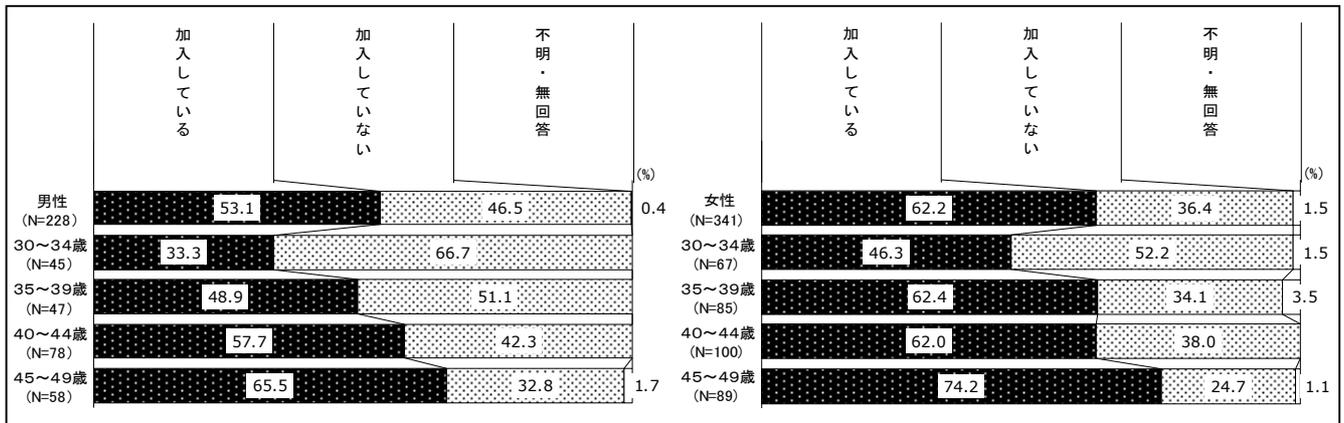
図1-8 町内会・自治会への加入



性・年代別にみると、「加入している」割合は「女性」（62.2%）が「男性」（53.1%）よりも9ポイント高くなっている。

また、男女ともに概ね年代が上がるにつれて「加入している」割合が高くなる傾向がみられ、「女性45～49歳」では74.2%となっている。

図1-9 町内会・自治会への加入（性・年代別）



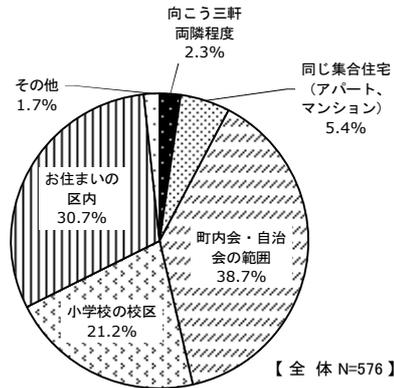
3 地域に対する関心・課題認識（30～49歳調査）

（1）「地域」の範囲

問1 あなたにとって、「地域」とは、次のうちの範囲をさすものですか。（○は1つ）

「地域」のさす範囲について尋ねたところ、「町内会・自治会の範囲」が38.7%で最も高く、次いで「お住まいの区内」（30.7%）、「小学校の校区」（21.2%）となっている。

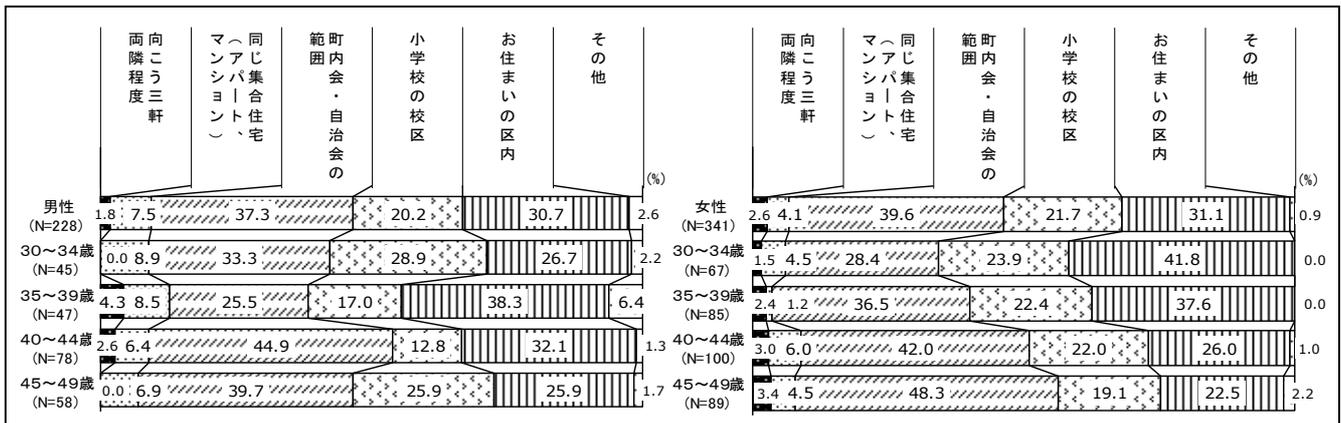
図2-1 「地域」の範囲



性・年代別にみると、「町内会・自治会の範囲」が男女ともに40代で高く、女性は年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

また、女性は、「お住まいの区内」の割合が「女性30～34歳」では4割を超えているが、年代が上がるにつれて低くなっている。

図2-2 「地域」の範囲（性・年代別）

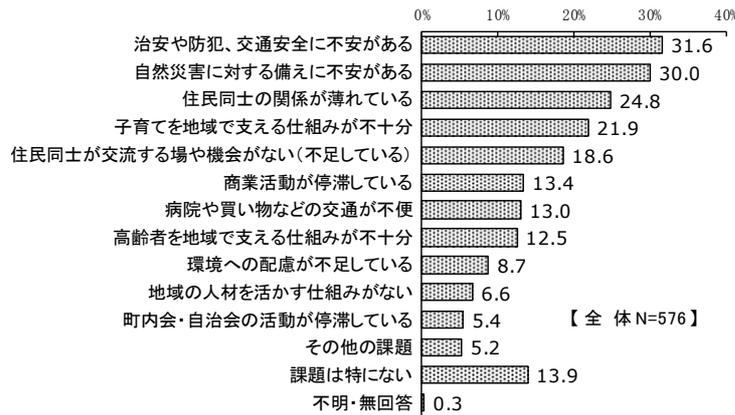


(2) 地域の課題

問2 あなたがお住まいの地域において、課題だと感じる項目を選んでください。
 (〇は3つまで)

地域の課題だと感じる項目について尋ねたところ、「治安や防犯、交通安全に不安がある」が31.6%で最も高く、次いで「自然災害に対する備えに不安がある」(30.0%)、「住民同士の関係が薄れている」(24.8%)、「子育てを地域で支える仕組みが不十分」(21.9%)、「住民同士が交流する場や機会がない(不足している)」(18.6%)となっている。

図2-3 地域の課題



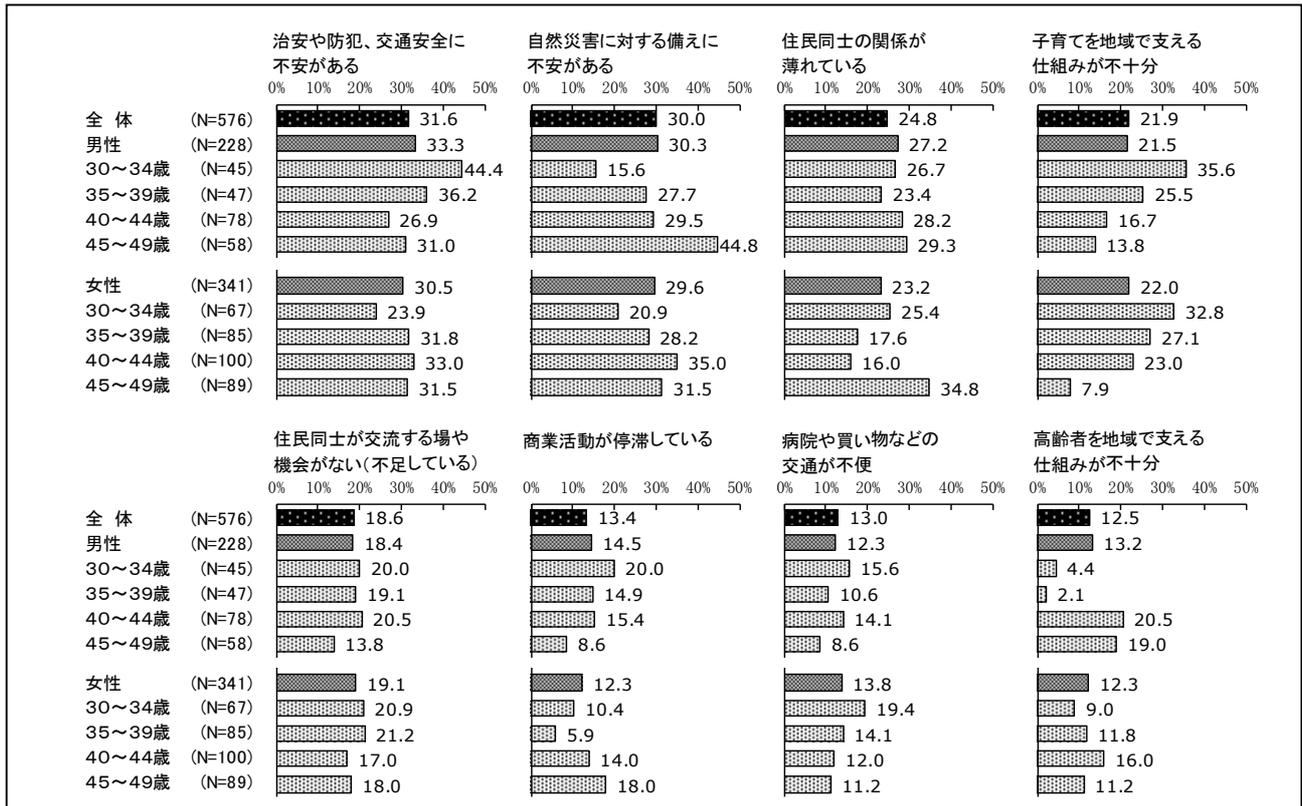
第2章 調査結果の詳細（30～49歳調査）

上位8項目について性・年代別にみると、「治安や防犯、交通安全に不安がある」では男性30代で割合が高い傾向がみられ、「男性30～34歳」は44.4%で最も高くなっている。

「自然災害に対する備えに不安がある」では男女ともに概ね年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられ、「男性45～49歳」は44.8%で最も高くなっている。

また、「住民同士の関係が薄れている」では「女性45～49歳」が34.8%で最も高く、「子育てを地域で支える仕組みが不十分」では男女ともに年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。そのほか、「高齢者を地域で支える仕組みが不十分」では男性40代が2割前後で高くなっている。

図2-4 地域の課題（性・年代別）—上位8項目—

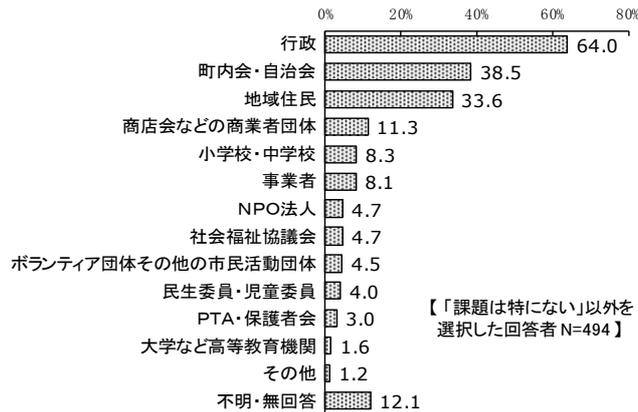


（3）課題に積極的に取り組むべき主体

問3 あなたがお住まいの地域における課題に、誰（どの主体）が積極的に取り組むべきだと思いますか。（〇は3つまで）
 ※問2で「課題は特にない」以外を選択した回答者が対象

地域において何らかの課題を感じている人に、誰（どの主体）が課題に対して積極的に取り組むべきか尋ねたところ、「行政」が64.0%で最も高く、次いで「町内会・自治会」（38.5%）、「地域住民」（33.6%）となっている。

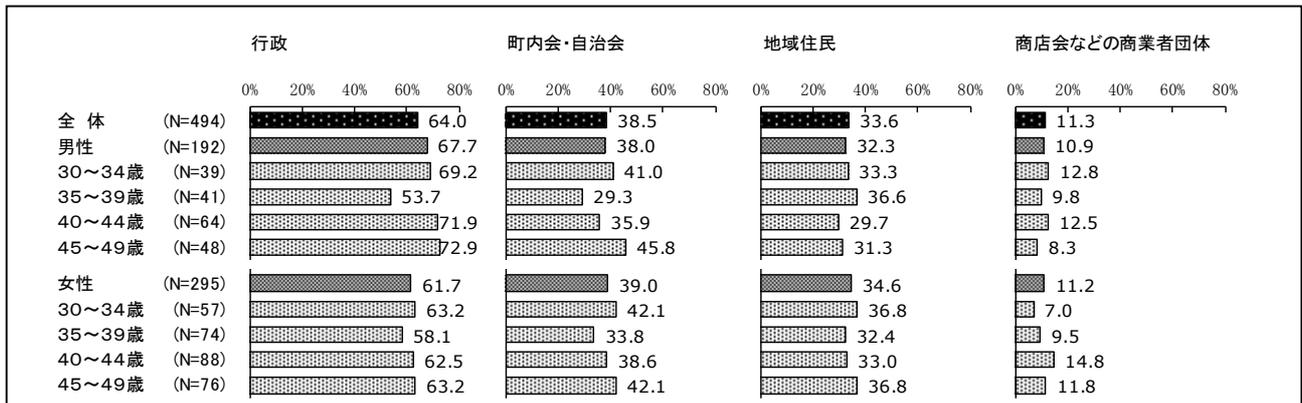
図2-5 課題に積極的に取り組むべき主体



上位4項目について性・年代別にみると、「行政」では「男性」（67.7%）が「女性」（61.7%）よりも6ポイント高く、男性40代では7割を超えている。

「町内会・自治会」では男女の「30～34歳」と「45～49歳」が4割台で高くなっている。

図2-6 課題に積極的に取り組むべき主体（性・年代別）—上位4項目—

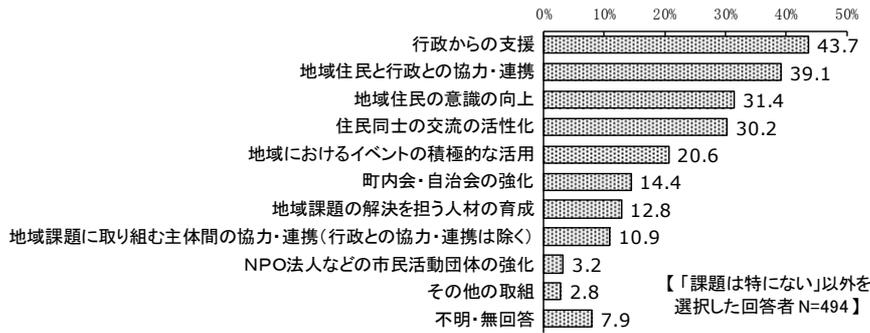


（4）課題解決に有効な取組

問4 あなたがお住まいの地域における課題を解決するための取組として、何が有効だと思いますか。（〇は3つまで）
 ※問2で「課題は特にない」以外を選択した回答者が対象

地域において何らかの課題を感じている人に、課題を解決するための取組として何が有効だと思うか尋ねたところ、「行政からの支援」が43.7%で最も高く、次いで「地域住民と行政との協力・連携」（39.1%）、「地域住民の意識の向上」（31.4%）、「住民同士の交流の活性化」（30.2%）となっている。

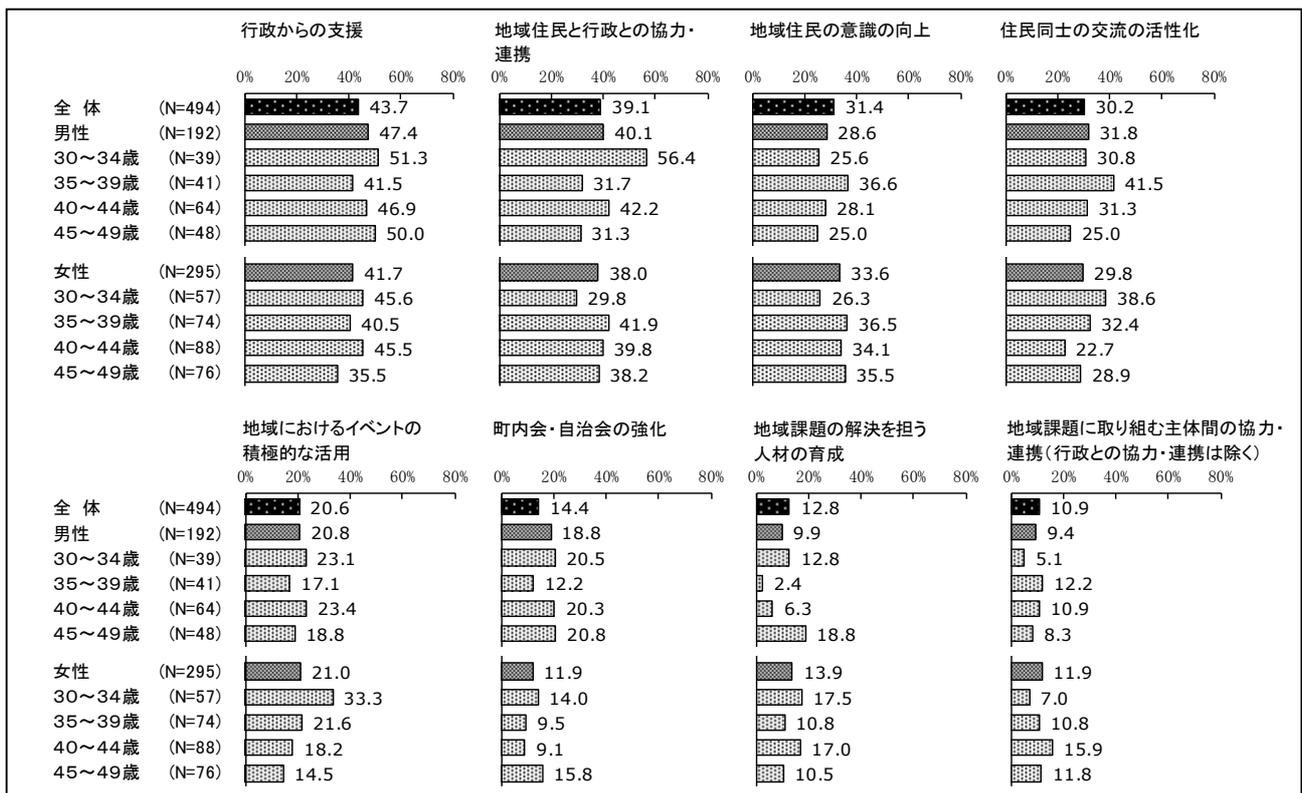
図2-7 課題解決に有効な取組



上位8項目について性・年代別にみると、「行政からの支援」では「男性」（47.4%）が「女性」（41.7%）よりも6ポイント高く、これと「地域住民と行政との協力・連携」の上位2項目では、「男性30～34歳」が5割を超えて最も高くなっている。また、「地域住民の意識の向上」や「地域課題の解決を担う人材の育成」では「女性」が「男性」よりも4～5ポイント高くなっている。

そのほか、「住民同士の交流の活性化」や「地域におけるイベントの積極的な活用」では、概ね女性の年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

図2-8 課題解決に有効な取組（性・年代別）—上位8項目—

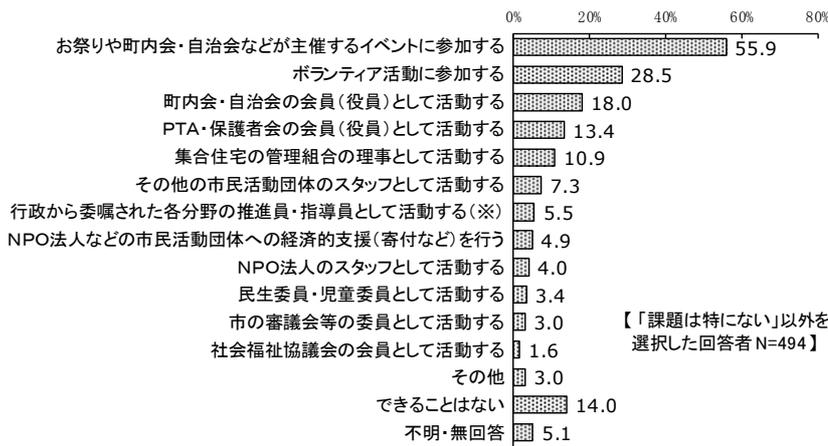


(5) 課題解決のために自身ができること

問5 あなたがお住まいの地域における課題を解決するために、あなたご自身ができることがあるとすれば、次のどれですか。（〇はいくつでも）
 ※問2で「課題は特にない」以外を選択した回答者が対象

地域において何らかの課題を感じている人に、課題を解決するために自身ができると思うことについて尋ねたところ、「お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する」が55.9%で最も高く、次いで「ボランティア活動に参加する」（28.5%）、「町内会・自治会の会員（役員）として活動する」（18.0%）、「PTA・保護者会の会員（役員）として活動する」（13.4%）となっている。

図2-9 課題解決のために自身ができること



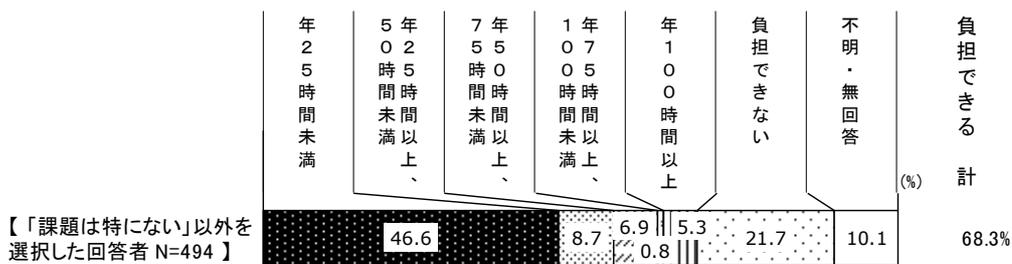
※具体例：運動普及推進員（ヘルスパートナー）、廃棄物減量指導員など

(6) 課題解決のために負担できる時間

問6 あなたがお住まいの地域における課題を解決するために、年にあなたご自身が負担できる時間、経済的負担はどれくらいですか。
 それぞれの（ ）内に、あてはまる数字をご記入ください。
 (ア) 時間 年に（ ）時間
 ※問2で「課題は特にない」以外を選択した回答者が対象

地域において何らかの課題を感じている人に、課題を解決するために負担できる時間を尋ねたところ、「負担できない」及び「不明・無回答」を除いた「負担できる 計」は68.3%を占めており、その内訳としては、「年2 5時間未満」が46.6%で最も高くなっている。一方で「負担できない」は21.7%となっている。

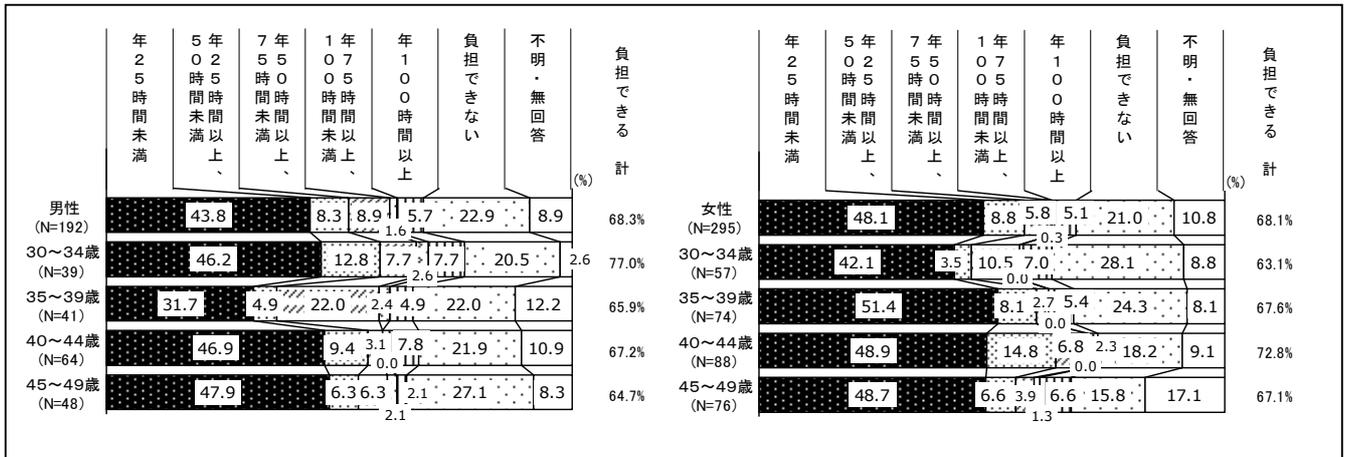
図2-10 課題解決のために負担できる時間



第2章 調査結果の詳細（30～49歳調査）

性・年代別にみると、「負担できる 計」の割合は、「男性30～34歳」と「女性40～44歳」が高くなっている。

図2-11 課題解決のために負担できる時間（性・年代別）

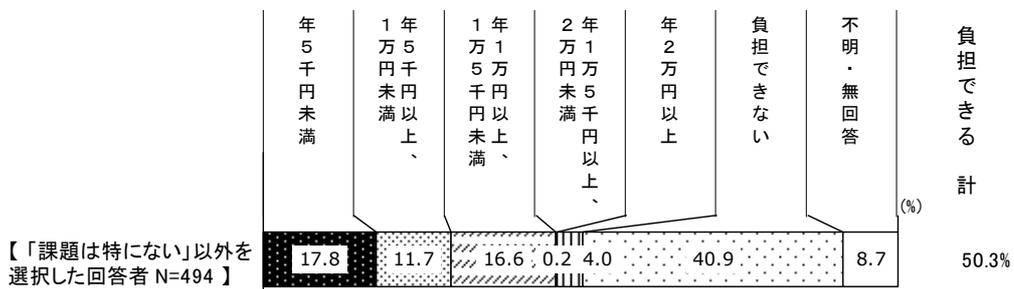


(7) 課題解決のために負担できる経済的負担

問6 あなたがお住まいの地域における課題を解決するために、
 年間にあなたご自身が負担できる時間、経済的負担はどれくらいですか。
 それぞれの()内に、あてはまる数字をご記入ください。
 (イ) 経済的負担 年に()円
 ※問2で「課題は特にない」以外を選択した回答者が対象

地域において何らかの課題を感じている人に、課題を解決するために負担できる金額を尋ねたところ、「負担できない」及び「不明・無回答」を除いた「負担できる 計」は、50.3%を占めており、その内訳として、「年5千円未満」(17.8%)が最も高く、僅差で「年1万円以上、1万5千円未満」(16.6%)が続いている。一方で、「負担できない」は40.9%となっている。

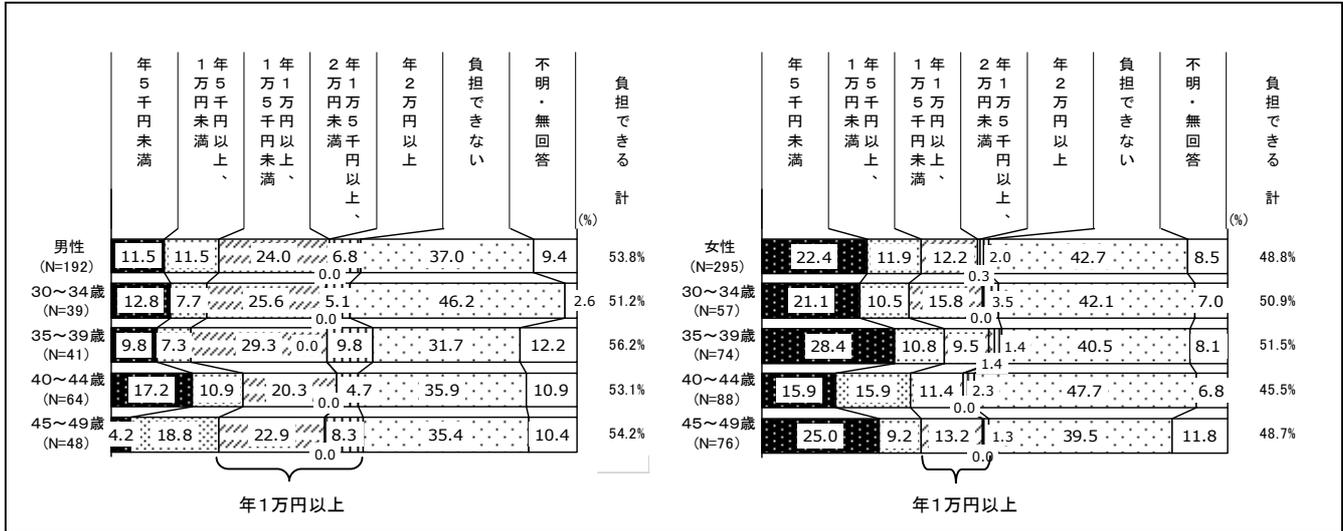
図2-12 課題解決のために負担できる経済的負担



性・年代別にみると、「負担できない」では「女性」（42.7%）が「男性」（37.0%）よりも6ポイント高くなっているものの、「年5千円未満」では「女性」（22.4%）が「男性」（11.5%）よりも11ポイント高くなっている。

また、「年1万円以上」の合計では「男性」（30.8%）が「女性」（14.5%）よりも16ポイント高くなっている。

図2-13 課題解決のために負担できる経済的負担（性・年代別）



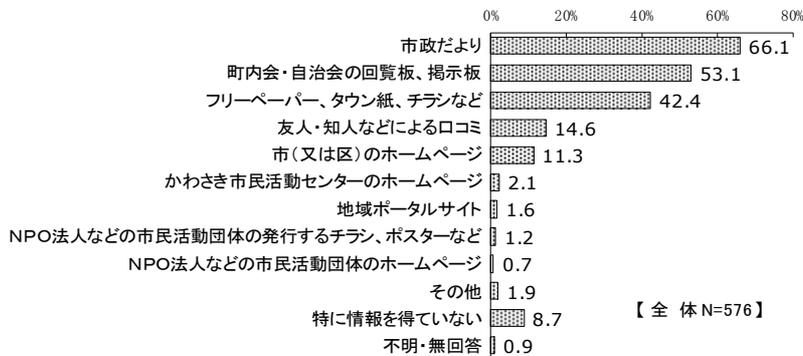
4 社会活動・地域活動への参加の状況や認識（30～49歳調査）

(1) 社会活動・地域活動に関する情報の入手先

問7 社会活動・地域活動に関する情報を、主にどのような媒体を通じて得ていますか。
(○は3つまで)

社会活動・地域活動に関する情報の入手先については、「市政だより」が66.1%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板、掲示板」(53.1%)、「フリーペーパー、タウン紙、チラシなど」(42.4%)となっている。

図3-1 社会活動・地域活動に関する情報の入手先

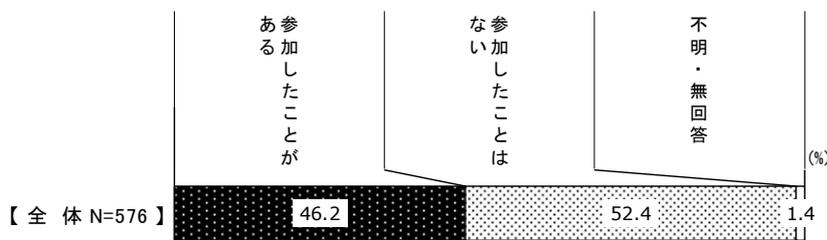


（2）社会活動・地域活動への参加経験

問8 あなたはこれまでに社会活動・地域活動に参加したことがありますか。（○は1つ）

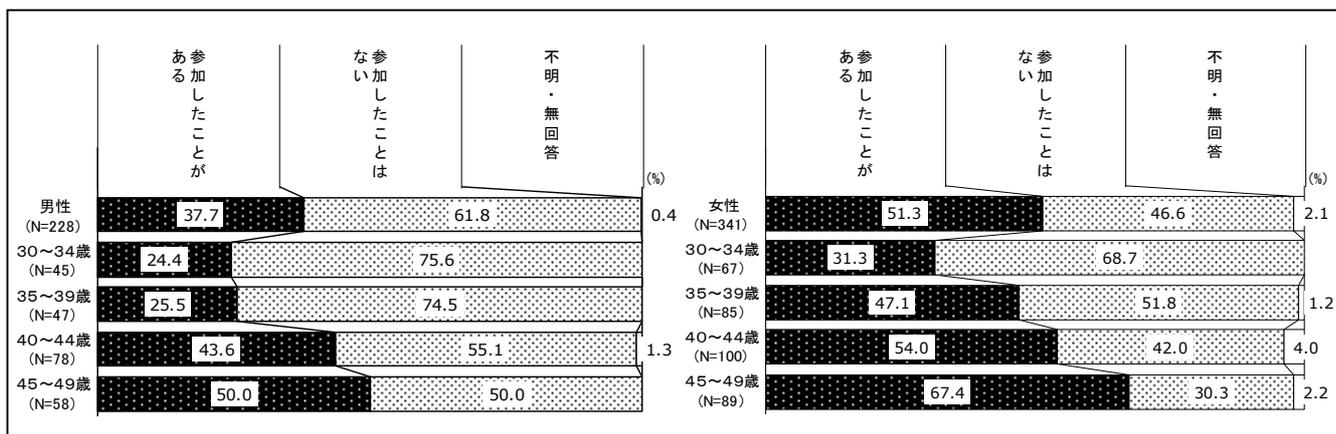
社会活動・地域活動への参加経験については、「参加したことがある」が46.2%で、「参加したことはない」が52.4%となっている。

図3-2 社会活動・地域活動への参加経験



性・年代別にみると、「参加したことがある」割合は「女性」(51.3%)が「男性」(37.7%)よりも14ポイント高くなっており、男女ともに年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

図3-3 社会活動・地域活動への参加経験（性・年代別）

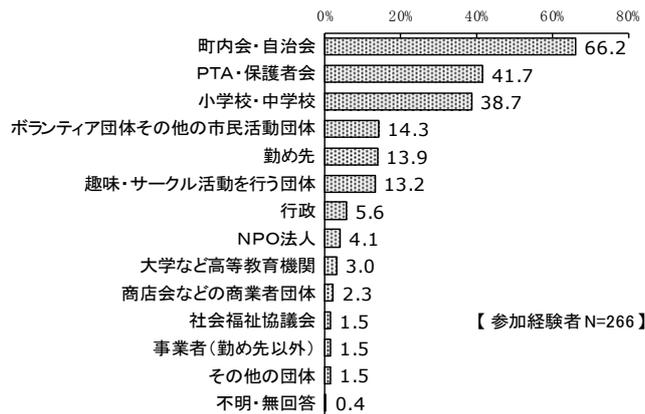


(3) 参加経験のある社会活動・地域活動の主催団体

問9 あなたは、どのような団体が主催する社会活動・地域活動に参加したことがありますか。（〇はいくつでも）
 ※参加経験者が対象

社会活動・地域活動に参加した経験があると回答した人に、参加したことがある活動の主催団体を尋ねたところ、「町内会・自治会」が66.2%で最も高く、次いで「PTA・保護者会」（41.7%）、「小学校・中学校」（38.7%）となっている。

図3-4 参加経験のある社会活動・地域活動の主催団体

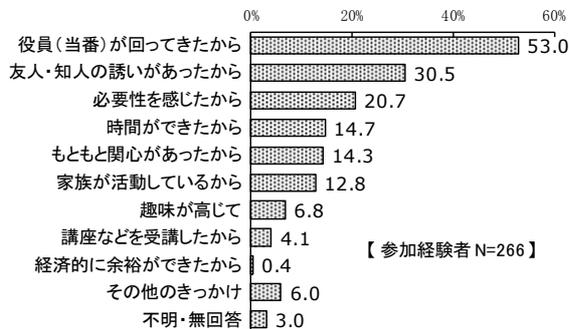


(4) 社会活動・地域活動に参加したきっかけ

問10 社会活動・地域活動に参加したきっかけは次のどれですか。（〇は3つまで）
 ※参加経験者が対象

社会活動・地域活動に参加した経験があると回答した人に、参加したきっかけを尋ねたところ、「役員（当番）が回ってきたから」が53.0%で最も高く、次いで「友人・知人の誘いがあったから」（30.5%）、「必要性を感じたから」（20.7%）となっている。

図3-5 社会活動・地域活動に参加したきっかけ

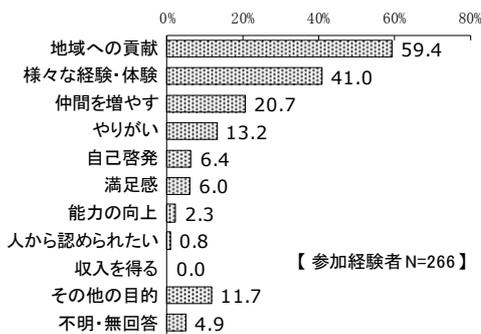


(5) 社会活動・地域活動に参加した目的

問11 あなたが、社会活動・地域活動に参加した目的は何ですか。（○は3つまで）
 ※参加経験者が対象

社会活動・地域活動に参加した経験があると回答した人に、参加した目的を尋ねたところ、「地域への貢献」が59.4%で最も高く、次いで「様々な経験・体験」（41.0%）、「仲間を増やす」（20.7%）となっている。

図3-6 社会活動・地域活動に参加した目的

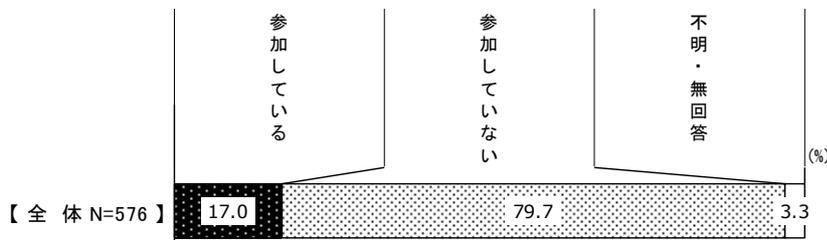


(6) 社会活動・地域活動への参加状況

問12 (ア) 現在、継続して社会活動・地域活動に参加していますか。（○は1つ）

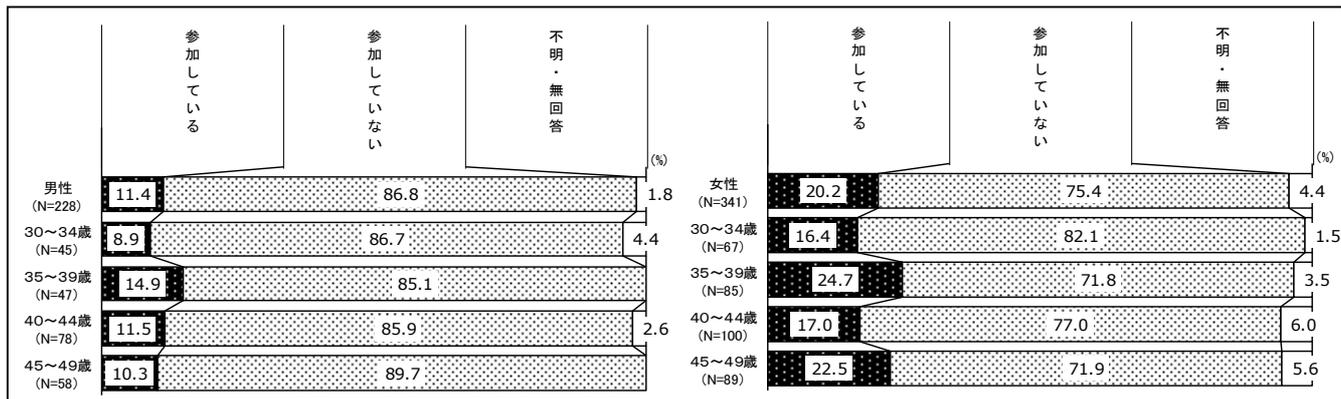
社会活動・地域活動への現在の参加状況については、「参加している」が17.0%で、「参加していない」が79.7%となっている。

図3-7 社会活動・地域活動への参加状況



性・年代別にみると、「参加している」割合は「女性」（20.2%）が「男性」（11.4%）よりも9ポイント高くなっており、男女ともに「35～39歳」の参加率が他の年代よりも高くなっている。

図3-8 社会活動・地域活動への参加状況（性・年代別）

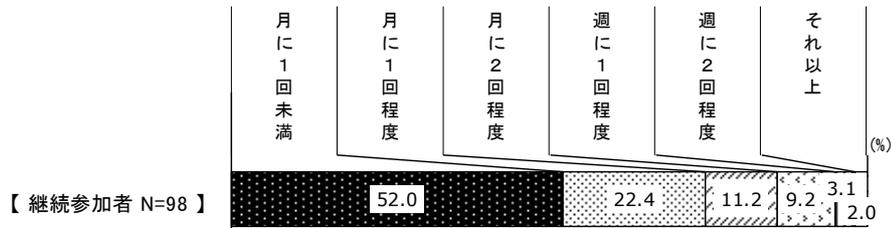


(7) 活動の頻度

問12 (イ) また、その活動の頻度はどれくらいですか。(〇は1つ)
※継続参加者が対象

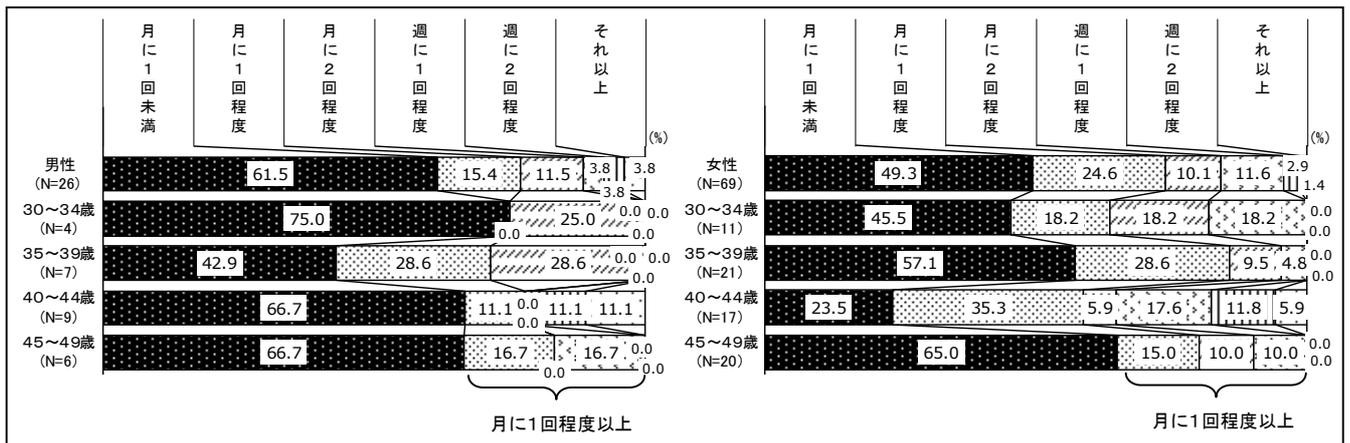
社会活動・地域活動に参加している人に活動の頻度を尋ねたところ、半数以上が「月に1回未満」と回答している。

図3-9 活動の頻度



性・年代別にみると、参加している「男性」の61.5%が「月に1回未満」なのに対し、「女性」の50.7%が「月に1回程度以上」と回答している。

図3-10 活動の頻度（性・年代別）

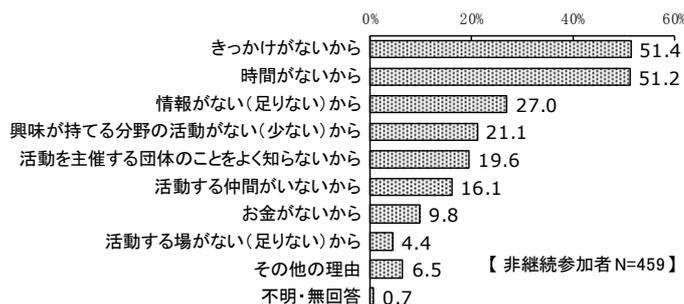


(8) 社会活動・地域活動に参加しない理由

問13 あなたが、社会活動・地域活動に参加しない理由は何ですか。(〇は3つまで)
※非継続参加者が対象

社会活動・地域活動に参加していない人に、参加しない理由を尋ねたところ、「きっかけがないから」が51.4%で最も高く、僅差で「時間がないから」(51.2%)が続いている。

図3-11 社会活動・地域活動に参加しない理由

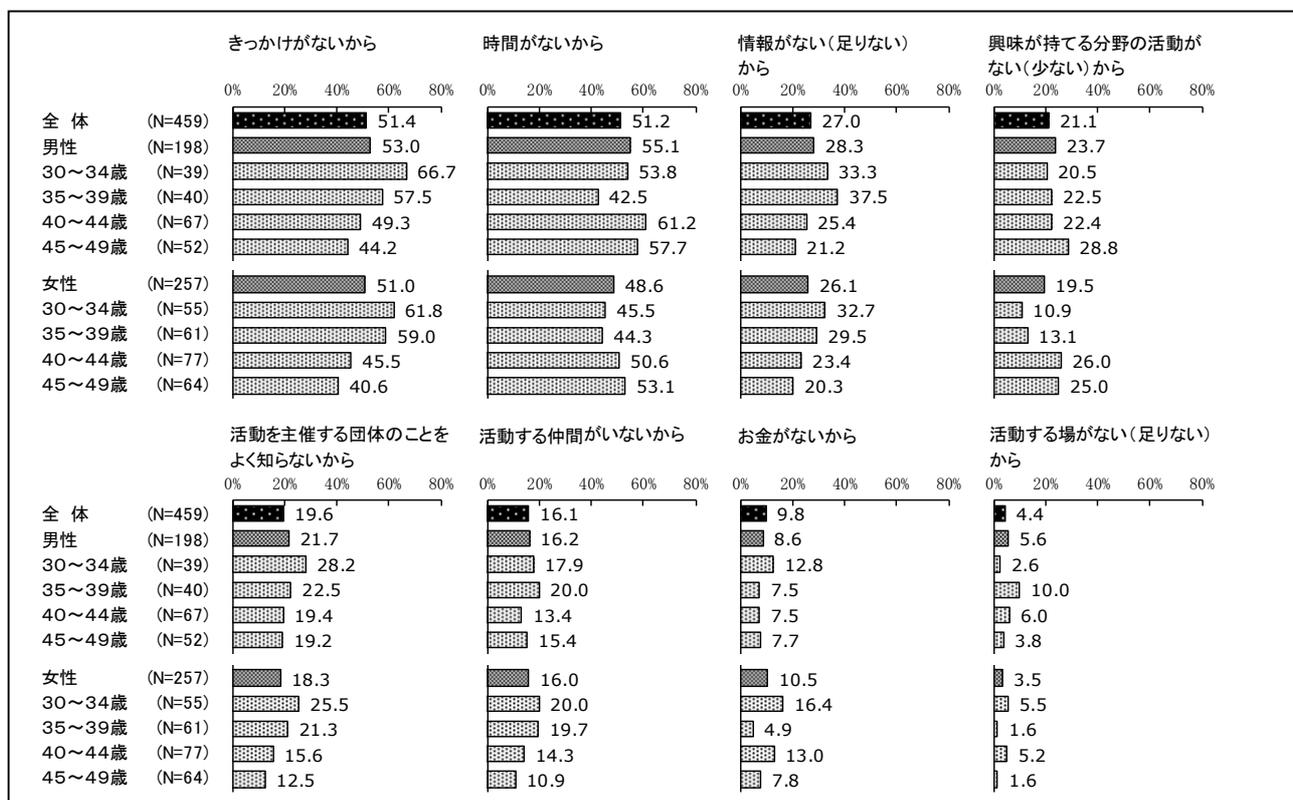


第2章 調査結果の詳細（30～49歳調査）

上位8項目について性・年代別にみると、「きっかけがないから」、「情報がない（足りない）から」、「活動を主催する団体のことをよく知らないから」では男女ともに概ね年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

また、「時間がないから」では「男性」（55.1%）が「女性」（48.6%）よりも7ポイント高く、「男性40～44歳」では6割を超えている。

図3-12 社会活動・地域活動に参加しない理由（性・年代別）—上位8項目—

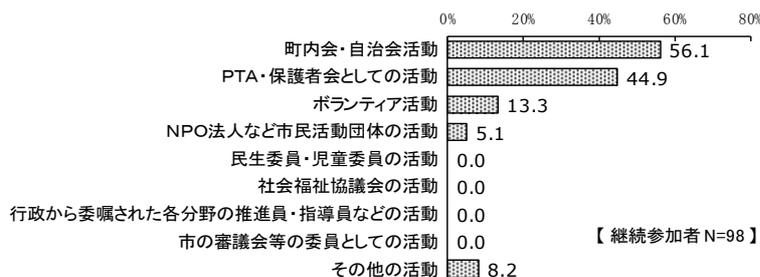


(9) 参加している社会活動・地域活動

問14 あなたが参加している、社会活動・地域活動は次のどれですか。（○はいくつでも）
※継続参加者が対象

社会活動・地域活動に参加している人に、参加している活動の内容を尋ねたところ、「町内会・自治会活動」が56.1%で最も高く、次いで「PTA・保護者会としての活動」（44.9%）、「ボランティア活動」（13.3%）、「NPO法人など市民活動団体の活動」（5.1%）となっている。

図3-13 参加している社会活動・地域活動

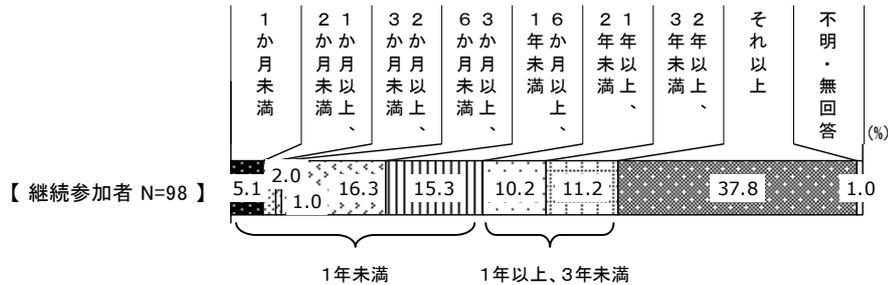


(10) 社会活動・地域活動の継続年数

問15 あなたは、どれくらいの間、社会活動・地域活動を続けていますか。（○は1つ）
 ※継続参加者が対象

社会活動・地域活動に参加している人に活動の継続年数を尋ねたところ、「1年未満」の合計が39.7%、「1年以上、3年未満」の合計が21.4%、「3年以上」が37.8%となっている。

図3-14 社会活動・地域活動の継続年数



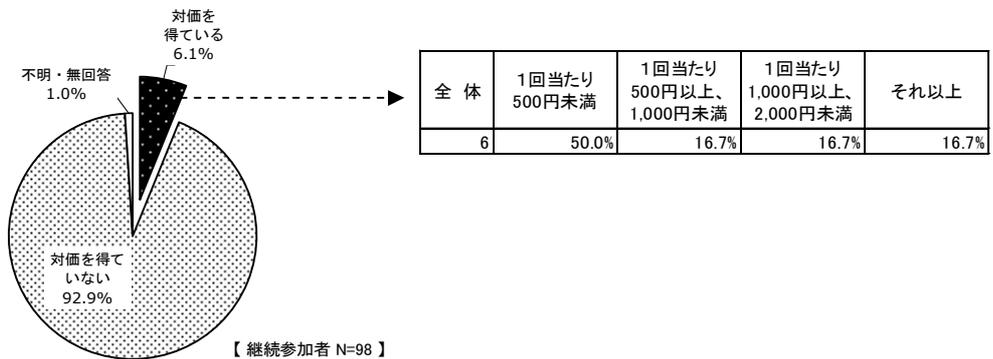
(11) 社会活動・地域活動への参加による対価の取得状況

問16 (ア) あなたは、社会活動・地域活動へ参加することで金銭による対価を得ていますか。（○は1つ）
 問16 (イ) 対価を得ている場合、活動1回当たりの対価の金額はどれくらいですか。（○は1つ）
 ※継続参加者が対象

社会活動・地域活動に参加している人に、参加することで金銭による対価を得ているか尋ねたところ、継続参加者の9割以上が「対価を得ていない」と回答している。

また、「対価を得ている」と回答した人に活動1回当たりの対価の金額を尋ねたところ、基数は少ないものの「1回当たり500円未満」が半数となっている。

図3-15 社会活動・地域活動への参加による対価の取得状況

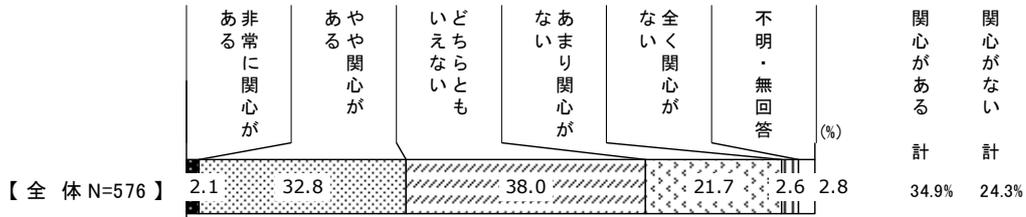


(12) 社会活動・地域活動への関心度

問17 あなたは、社会活動・地域活動にどの程度関心がありますか。（○は1つ）

社会活動・地域活動への関心度は、「どちらともいえない」が38.0%で最も高く、「非常に関心がある」(2.1%)と「やや関心がある」(32.8%)をあわせた「関心がある 計」は34.9%となっている。

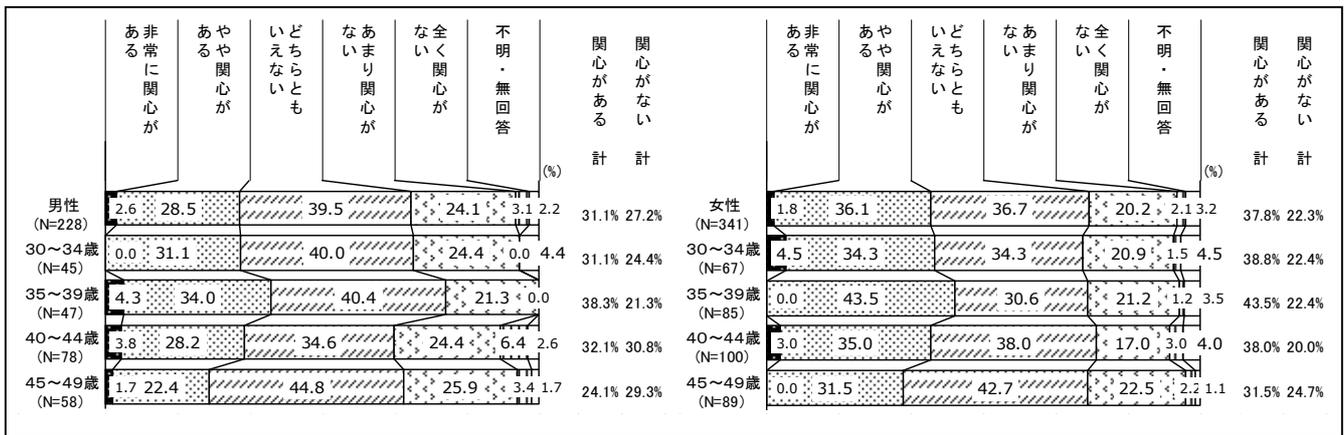
図3-16 社会活動・地域活動への関心度



性・年代別にみると、「関心がある 計」の割合は「女性」(37.8%)が「男性」(31.1%)よりも7ポイント高く、「女性35～39歳」は43.5%で最も高くなっている。

一方、「関心がない 計」の割合は男性40代が3割前後で他の年代よりも高くなっている。

図3-17 社会活動・地域活動への関心度（性・年代別）

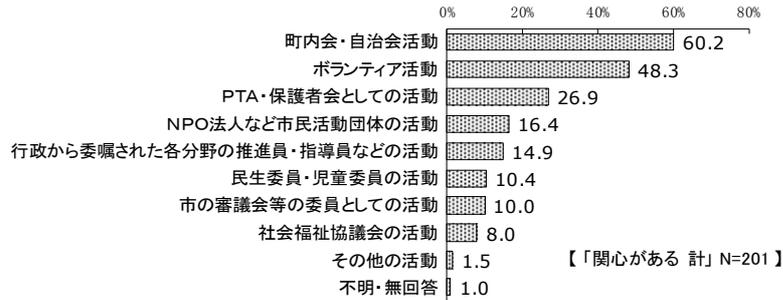


(13) 関心のある社会活動・地域活動

問18 あなたが関心のある社会活動・地域活動は次のどれですか。（〇はいくつでも）
 ※「非常に関心がある」または「やや関心がある」を選択した回答者が対象

社会活動・地域活動に関心があると回答した人に、関心のある活動内容を尋ねたところ、「町内会・自治会活動」が60.2%で最も高く、次いで「ボランティア活動」（48.3%）、「PTA・保護者会としての活動」（26.9%）となっている。

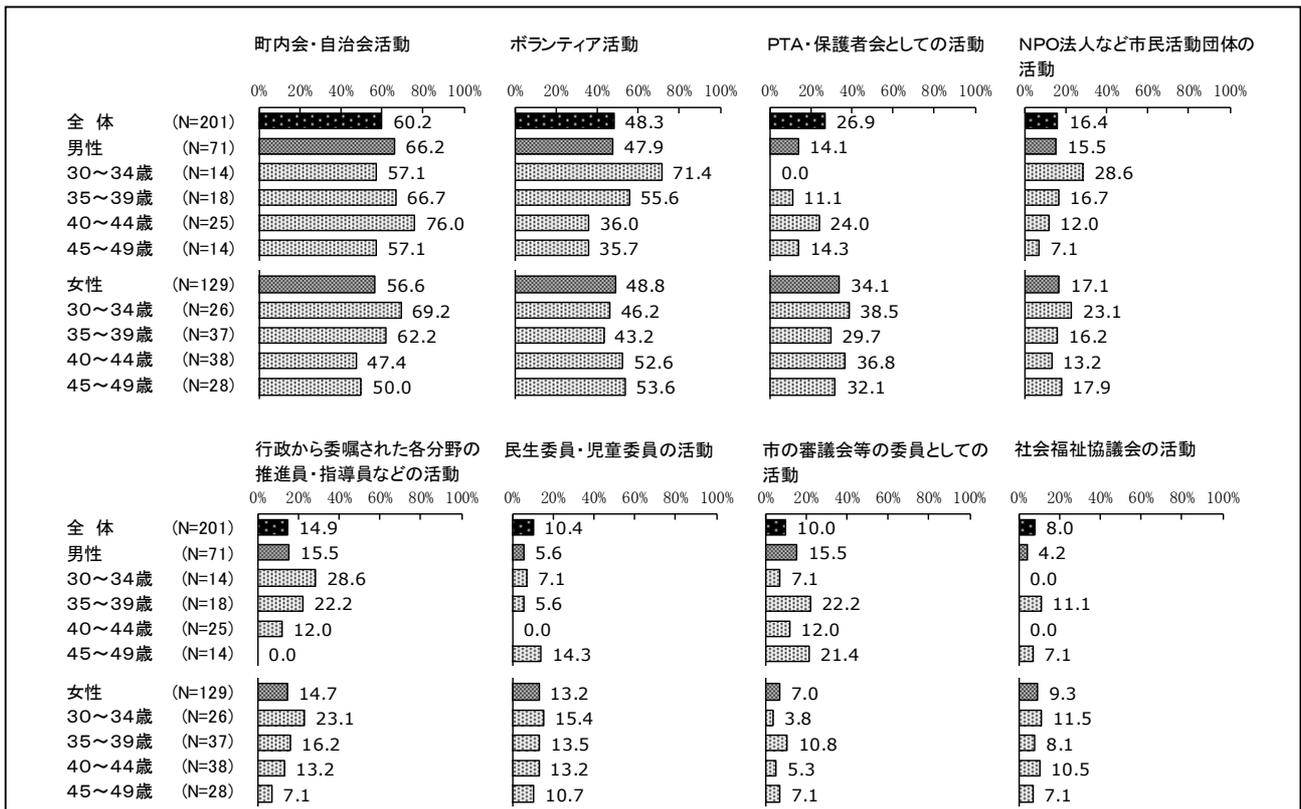
図3-18 関心のある社会活動・地域活動



上位8項目について性・年代別にみると、「町内会・自治会活動」では「男性40～44歳」が76.0%で最も高くなっており、女性は概ね年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

また、「ボランティア活動」、「NPO法人など市民活動団体の活動」、「行政から委嘱された各分野の推進員・指導員などの活動」では、基数は少ないものの、男性の年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。そのほか、「PTA・保護者会としての活動」では「女性」（34.1%）が「男性」（14.1%）よりも20ポイント高くなっている。

図3-19 関心のある社会活動・地域活動（性・年代別）—上位8項目—

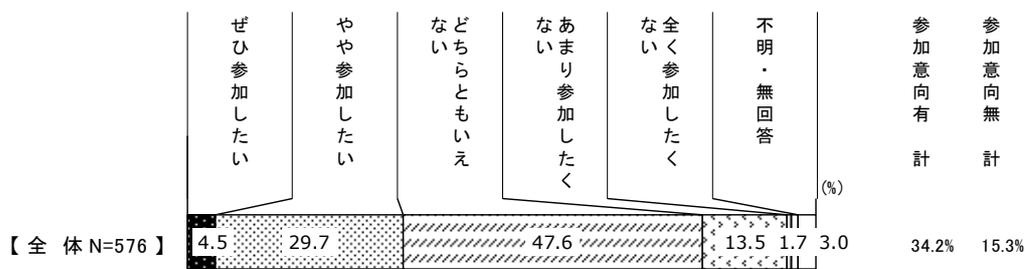


(14) 今後の社会活動・地域活動への参加意向

問19 あなたは、今後、社会活動・地域活動に参加したいと思いますか。（○は1つ）

今後の社会活動・地域活動への参加意向については、「どちらともいえない」が47.6%で最も高く、「ぜひ参加したい」（4.5%）と「やや参加したい」（29.7%）をあわせた「参加意向有 計」は34.2%となっている。

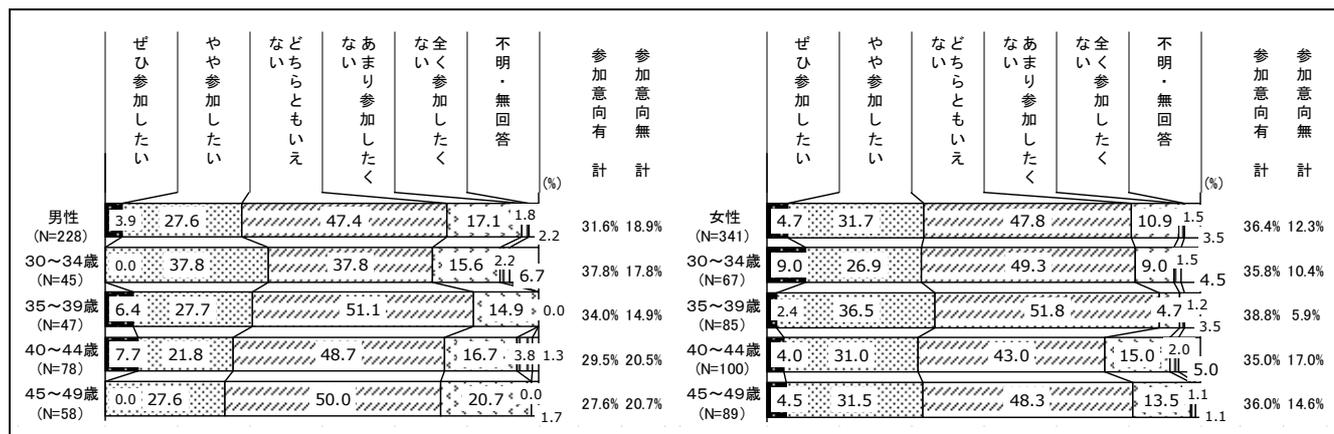
図3-20 今後の社会活動・地域活動への参加意向



性・年代別にみると、「参加意向有 計」の割合は、「女性」（36.4%）が「男性」（31.6%）よりも5ポイント高くなっている。

また、男性は年代が上がるにつれて「参加意向有 計」の割合が低くなる傾向がみられる。

図3-21 今後の社会活動・地域活動への参加意向（性・年代別）

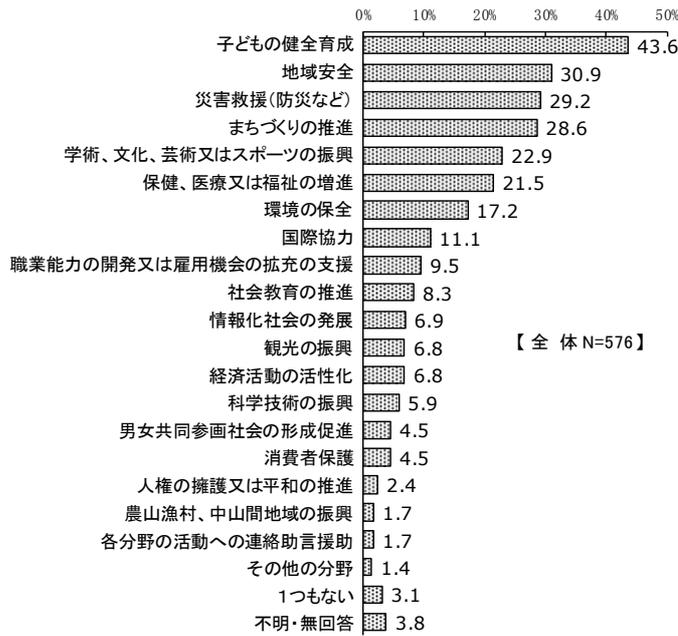


(15) 参加したい社会活動・地域活動の分野

問20 あなたは、どのような分野の社会活動・地域活動であれば参加したいと思いますか。
 (〇はいくつでも)

どのような社会活動・地域活動であれば参加したいか尋ねたところ、「子どもの健全育成」が43.6%で最も高く、次いで「地域安全」(30.9%)、「災害救援(防災など)」(29.2%)、「まちづくりの推進」(28.6%)、「学術、文化、芸術又はスポーツの振興」(22.9%)、「保健、医療又は福祉の増進」(21.5%)となっている。

図3-22 参加したい社会活動・地域活動の分野

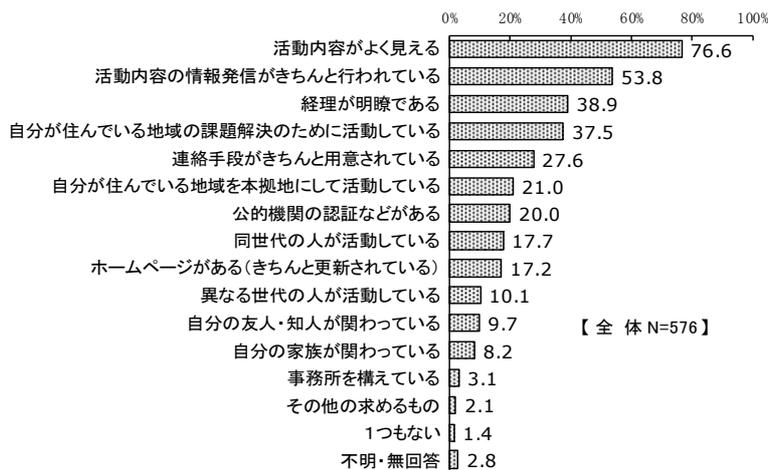


(16) 活動を主催する団体に求めるもの

問21 あなたが、社会活動・地域活動への参加を決める際に、活動を主催する団体に求めるものは次のどれですか。（○は5つまで）

社会活動・地域活動への参加を決める際に、活動を主催する団体に求めることについては、「活動内容がよく見える」が76.6%で最も高く、次いで「活動内容の情報発信がきちんと行われている」（53.8%）、「経理が明瞭である」（38.9%）、「自分が住んでいる地域の課題解決のために活動している」（37.5%）となっている。

図3-23 活動を主催する団体に求めるもの

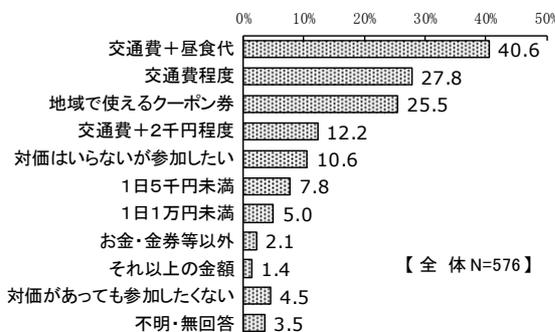


(17) どのような対価があれば社会活動・地域活動に参加したいか

問22 あなたが、社会活動・地域活動をする場合、どのような対価があれば参加したいですか。（○は3つまで）

社会活動・地域活動をする場合にどのような対価があれば参加したいか尋ねたところ、「交通費+昼食代」が40.6%で最も高く、次いで「交通費程度」（27.8%）、「地域で使えるクーポン券」（25.5%）となっている。

図3-24 どのような対価があれば社会活動・地域活動に参加したいか

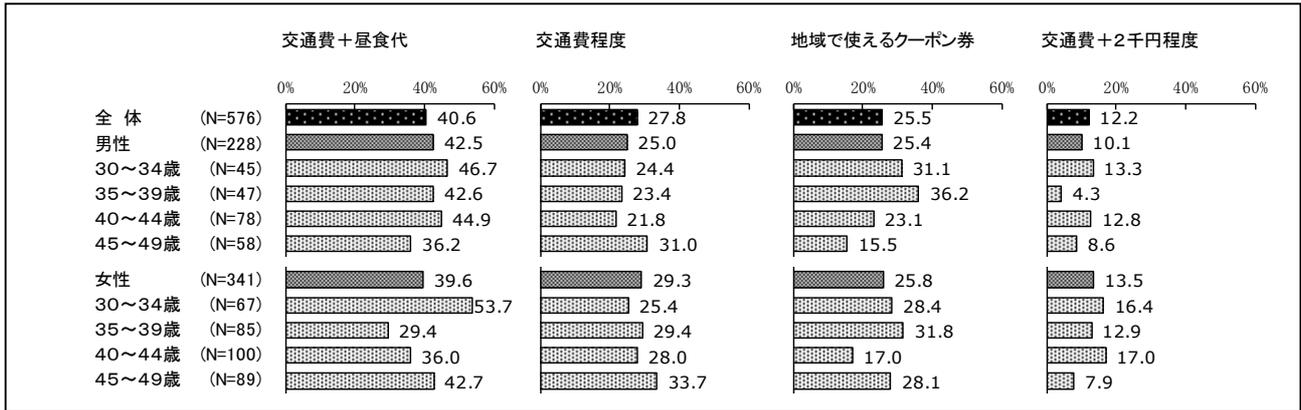


上位4項目について性・年代別にみると、「交通費+昼食代」では「女性30～34歳」が53.7%で最も高くなっている。

また、「交通費程度」では「女性」（29.3%）が「男性」（25.0%）よりも4ポイント高くなっており、男女ともに「45～49歳」で3割を超えている。

そのほか、「地域で使えるクーポン券」では男女の30代と「女性45～49歳」が高くなっている。

図3-25 どのような対価があれば社会活動・地域活動に参加したいか（性・年代別）
—上位4項目—

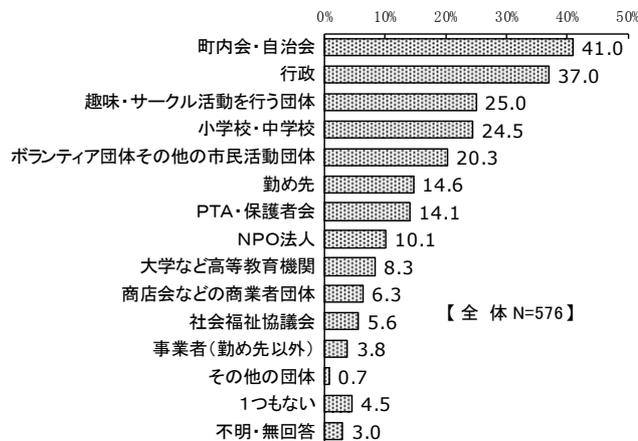


(18) どのような団体が主催する社会活動・地域活動に参加したいか

問23 あなたは、今後、どのような団体が主催する社会活動・地域活動であれば参加したいと思いますか。（〇は3つまで）

今後、どのような団体が主催する社会活動・地域活動であれば参加したいか尋ねたところ、「町内会・自治会」が41.0%で最も高く、次いで「行政」（37.0%）、「趣味・サークル活動を行う団体」（25.0%）、「小学校・中学校」（24.5%）、「ボランティア団体その他の市民活動団体」（20.3%）となっている。

図3-26 どのような団体が主催する社会活動・地域活動に参加したいか

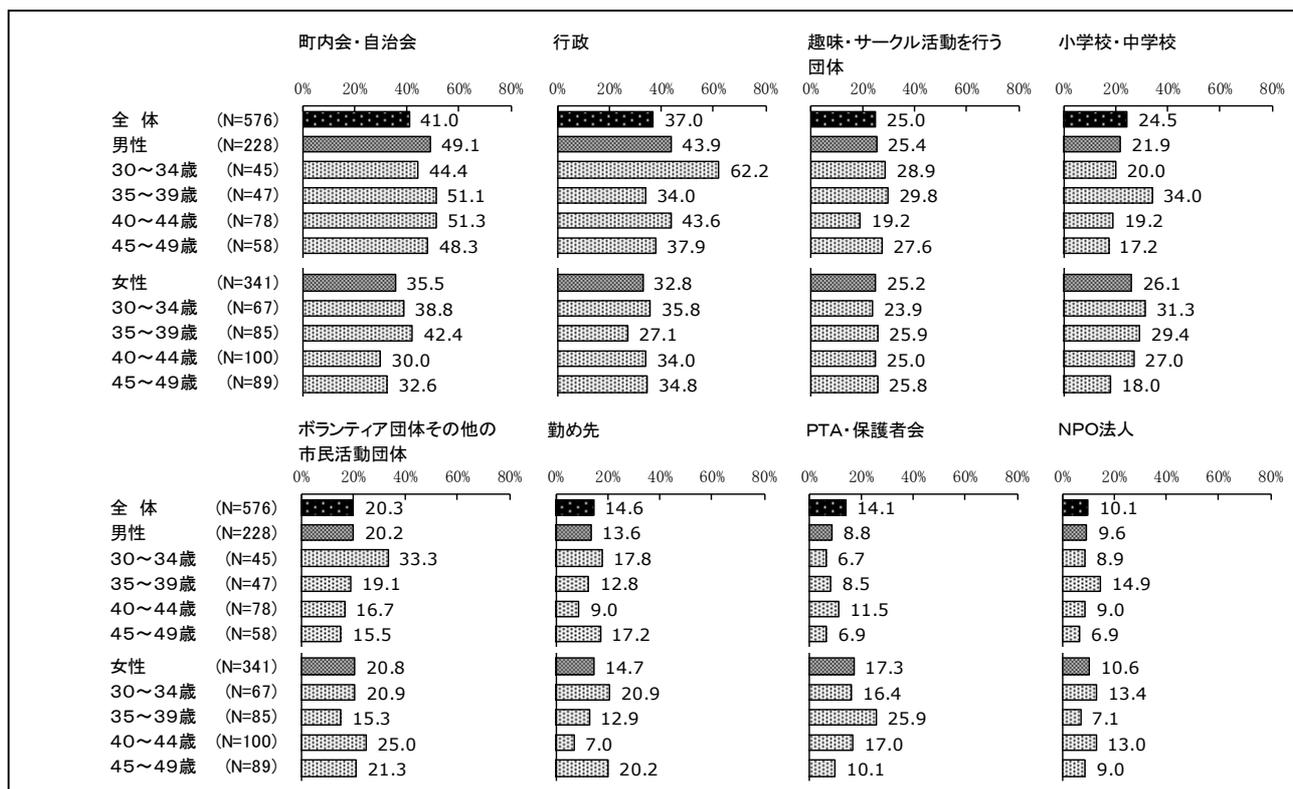


第2章 調査結果の詳細（30～49歳調査）

上位8項目について性・年代別にみると、「町内会・自治会」と「行政」の上位2項目では、「男性」が「女性」よりもそれぞれ11～14ポイント高くなっており、「行政」では「男性30～34歳」が62.2%で最も高くなっている。

また、「男性30～34歳」は「ボランティア団体その他の市民活動団体」においても3割を超えて他の年代よりも高くなっている。そのほか、「小学校・中学校」では「女性」（26.1%）が「男性」（21.9%）よりも4ポイント高く、「PTA・保護者会」では「女性」（17.3%）が「男性」（8.8%）よりも9ポイント高くなっている。

図3-27 どのような団体が主催する社会活動・地域活動に参加したいか（性・年代別）—上位8項目—

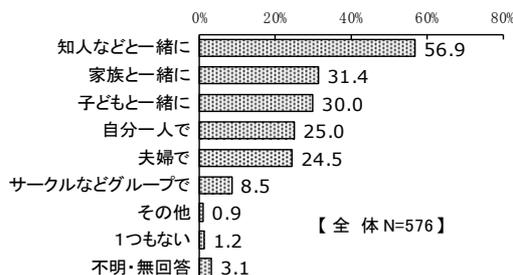


(19) 誰と一緒に社会活動・地域活動に参加しやすいか

問24 あなたが、社会活動・地域活動へ参加する場合、誰と一緒に参加しやすいと思いますか。（〇はいくつでも）

社会活動・地域活動へ参加する場合に誰と一緒に参加しやすいか尋ねたところ、「知人などと一緒に」が56.9%で最も高く、次いで「家族と一緒に」（31.4%）、「子どもと一緒に」（30.0%）、「自分一人で」（25.0%）、「夫婦で」（24.5%）となっている。

図3-28 誰と一緒に社会活動・地域活動に参加しやすいか

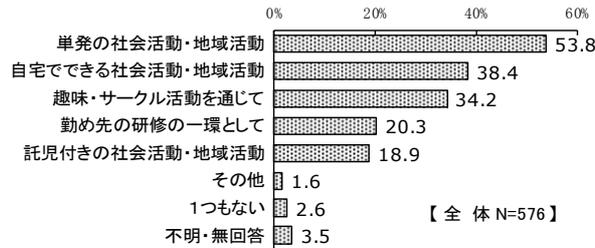


(20) 参加しやすい社会活動・地域活動

問25 あなたは、どのような社会活動・地域活動であれば参加しやすいと思いますか。
 (〇は3つまで)

どのような社会活動・地域活動であれば参加しやすいか尋ねたところ、「単発の社会活動・地域活動」が53.8%で最も高く、次いで「自宅でできる社会活動・地域活動」(38.4%)、「趣味・サークル活動を通じて」(34.2%)となっている。

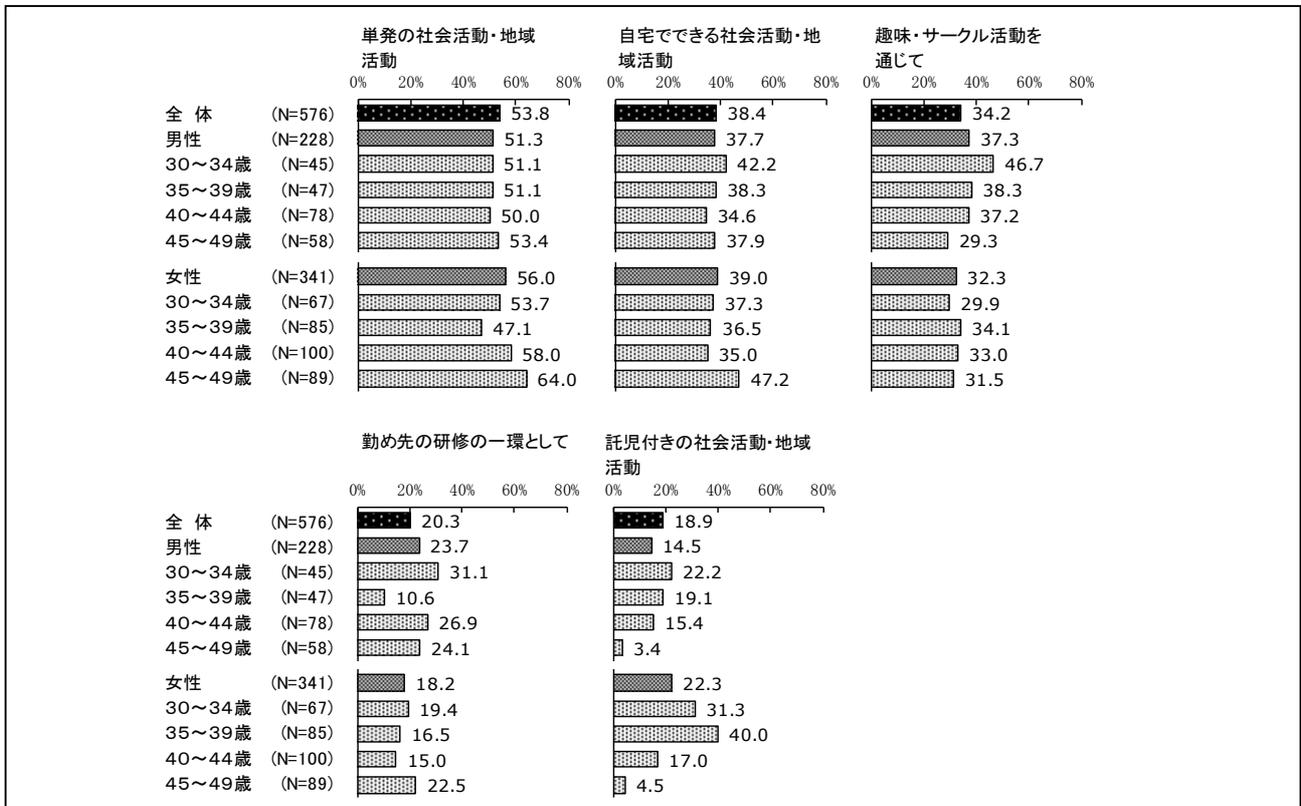
図3-29 参加しやすい社会活動・地域活動



上位5項目について性・年代別にみると、「単発の社会活動・地域活動」と「自宅でできる社会活動・地域活動」の上位2項目では、「女性45～49歳」が最も高くなっている。

また、「趣味・サークル活動を通じて」では「男性」(37.3%)が「女性」(32.3%)よりも5ポイント高く、男性は年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

図3-30 参加しやすい社会活動・地域活動（性・年代別）—上位5項目—

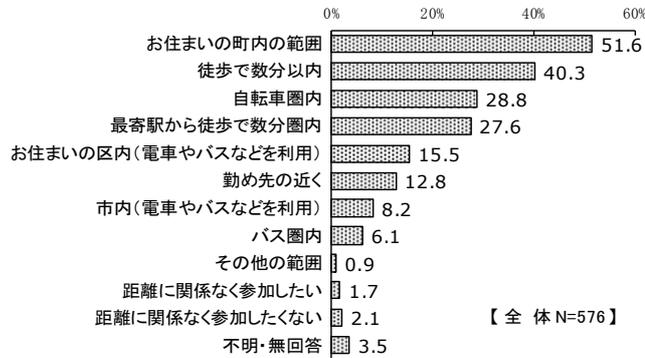


(21) 参加しやすい活動範囲

問26 あなたが参加しやすい活動範囲は、次のどれですか。（〇はいくつでも）

参加しやすい活動範囲は、「お住まいの町内の範囲」が51.6%で最も高く、次いで「徒歩で数分以内」（40.3%）、「自転車圏内」（28.8%）、「最寄駅から徒歩で数分圏内」（27.6%）となっている。

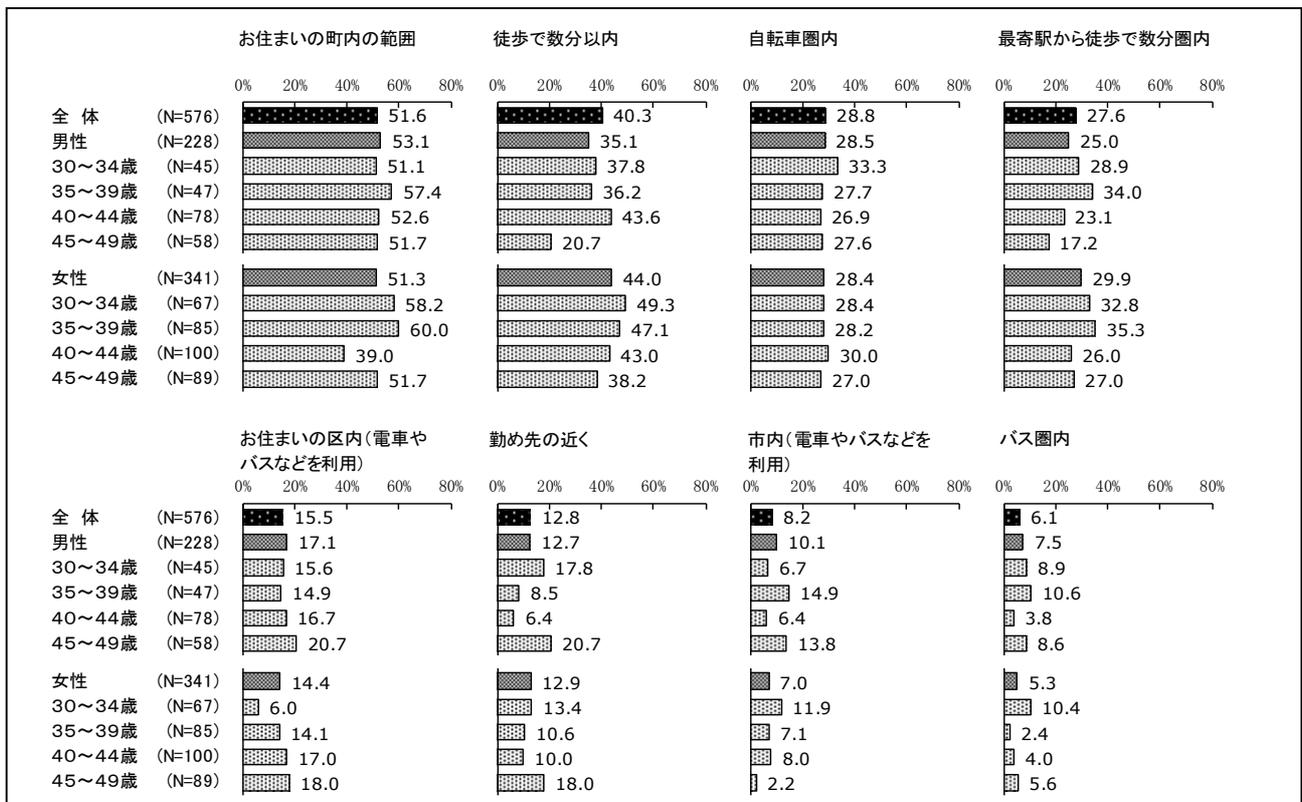
図3-31 参加しやすい活動範囲



上位8項目について性・年代別にみると、「お住まいの町内の範囲」では女性30代が6割前後で他の年代よりも高くなっている。

また、「徒歩で数分以内」では女性の年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられ、「最寄駅から徒歩で数分圏内」では男女とも30代で割合が高くなっている。

図3-32 参加しやすい活動範囲（性・年代別）—上位8項目—

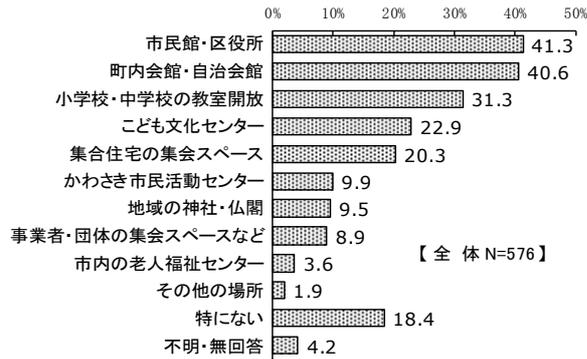


(22) 地域で活動を行う場合に気軽に使える場所

問27 あなたが、地域で活動を行う場合に、気軽に使える場所は次のどれですか。
(○はいくつでも)

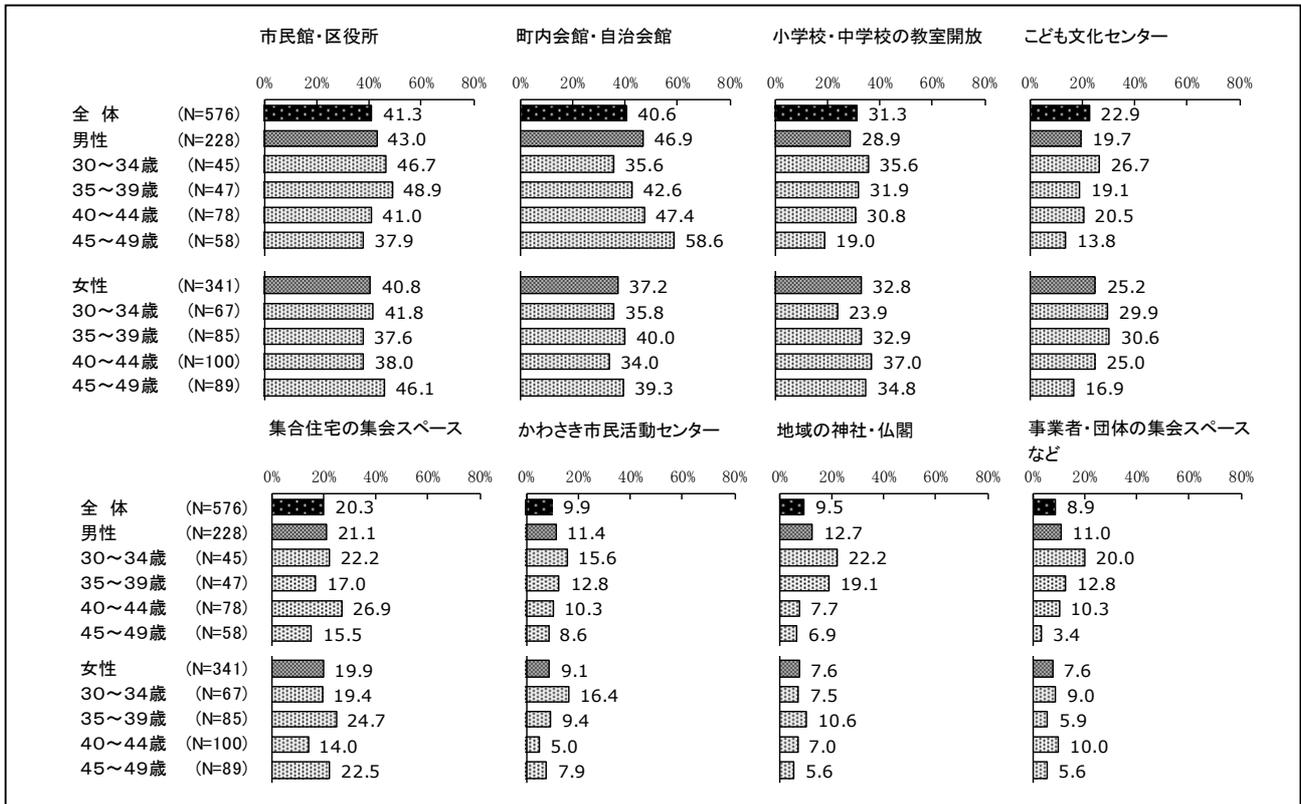
地域で活動を行う場合に気軽に使える場所を尋ねたところ、「市民館・区役所」が41.3%で最も高く、次いで「町内会館・自治会館」(40.6%)、「小学校・中学校の教室開放」(31.3%)、「こども文化センター」(22.9%)、「集合住宅の集会スペース」(20.3%)となっている。

図3-33 地域で活動を行う場合に気軽に使える場所



上位8項目について性・年代別にみると、「町内会館・自治会館」では「男性」(46.9%)が「女性」(37.2%)よりも10ポイント高く、男性は年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。また、「小学校・中学校の教室開放」や「こども文化センター」では「女性」が「男性」よりも4～6ポイント高くなっている。

図3-34 地域で活動を行う場合に気軽に使える場所（性・年代別）—上位8項目—

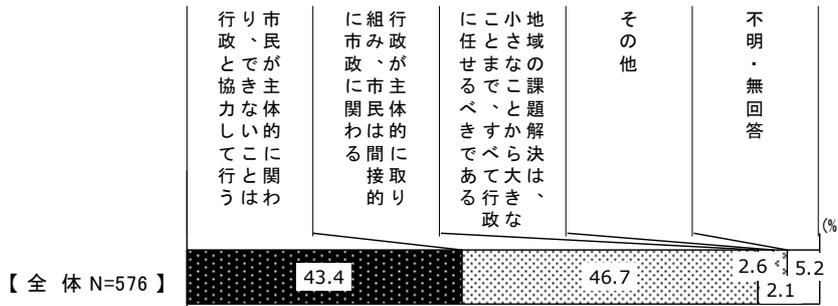


(23) 今後の社会において市民が果たすべき役割

問28 あなたは、今後の社会において地域を暮らしやすくしていくために、市民としてどのような役割を果たしていくべきだと思いますか。（〇は1つ）

今後の社会において地域を暮らしやすくしていくための市民の役割については、「行政が主体的に取り組み、市民は間接的に市政に関わる」が46.7%、3ポイント差で「市民が主体的に関わり、できないことは行政と協力して行う」（43.4%）となっている。

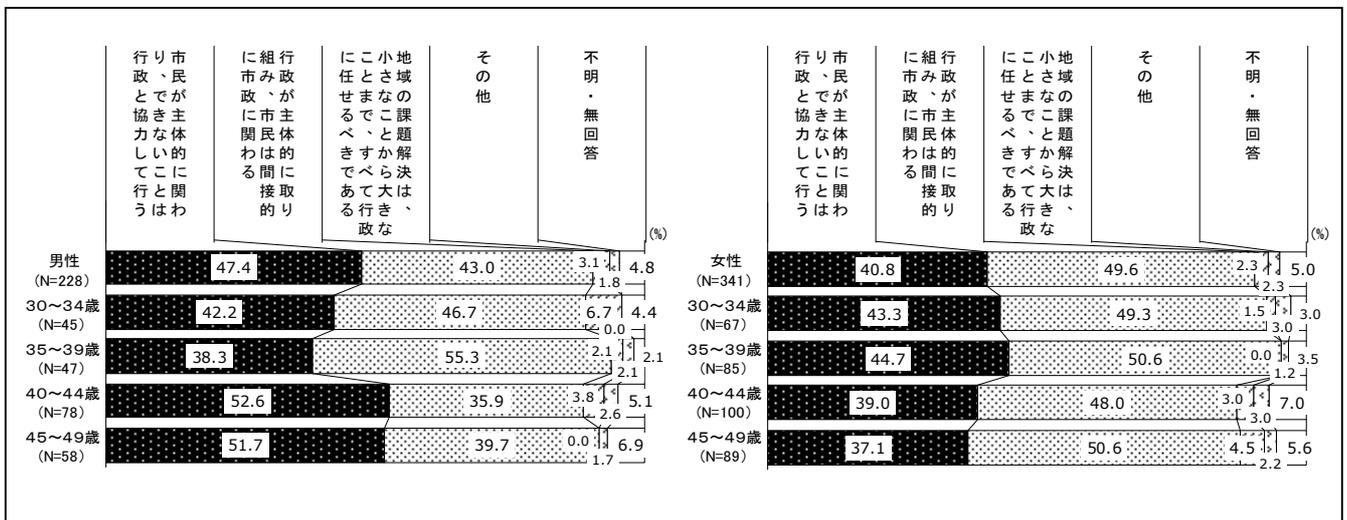
図3-35 今後の社会において市民が果たすべき役割



性・年代別にみると、「市民が主体的に関わり、できないことは行政と協力して行う」では「男性」（47.4%）が「女性」（40.8%）よりも7ポイント高く、男性40代は5割を超えている。

また、「行政が主体的に取り組み、市民は間接的に市政に関わる」では男女の「35～39歳」と「女性45～49歳」で5割を超えている。

図3-36 今後の社会において市民が果たすべき役割（性・年代別）

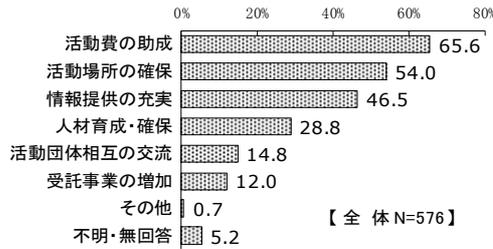


(24) 公益性の高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目

問29 公益性が高い社会活動・地域活動に対して、行政が支援すべきだと思う項目はどれですか。（〇はいくつでも）

公益性の高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目は、「活動費の助成」が65.6%で最も高く、次いで「活動場所の確保」(54.0%)、「情報提供の充実」(46.5%)、「人材育成・確保」(28.8%)となっている。

図3-37 公益性の高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目

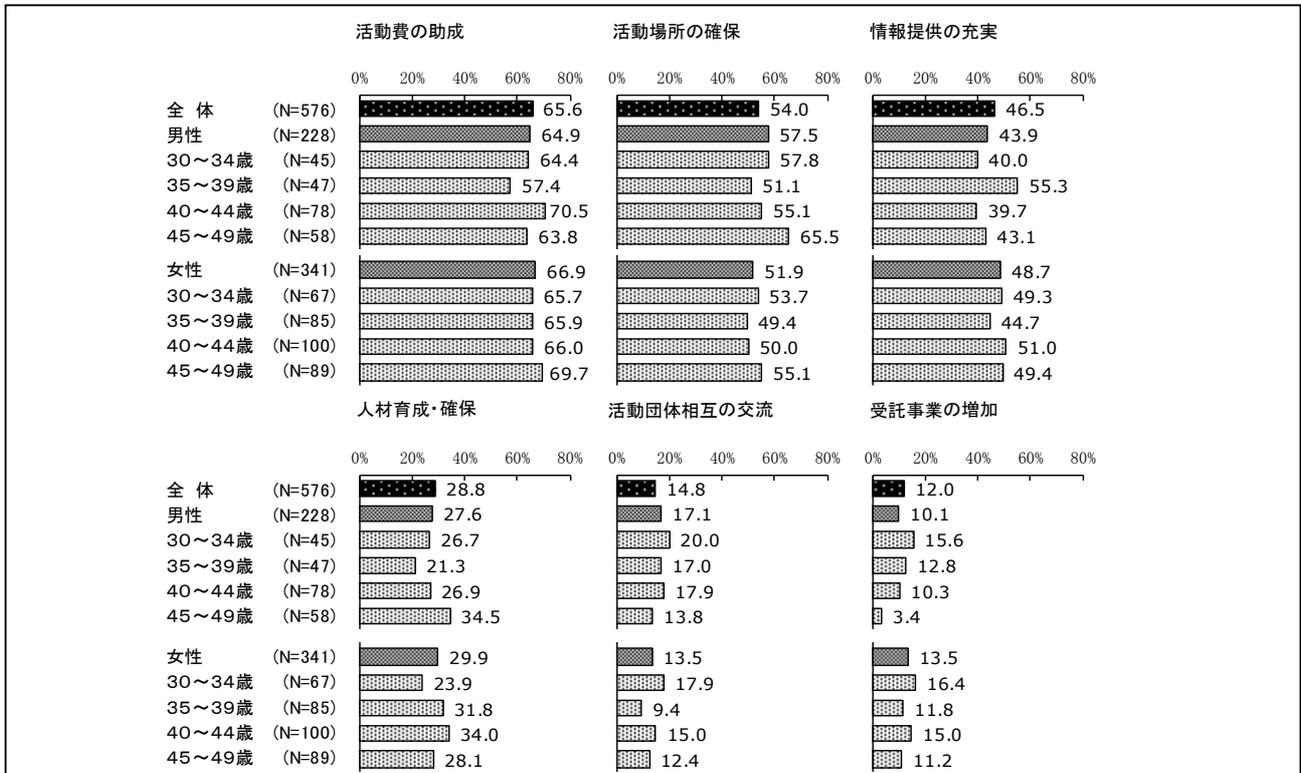


上位6項目について性・年代別にみると、「活動費の助成」では「男性40～44歳」と「女性45～49歳」が7割前後となっている。

また、「活動場所の確保」では「男性45～49歳」(65.5%)が、「情報提供の充実」では「男性35～39歳」(55.3%)がそれぞれ最も高くなっている。

図3-38 公益性の高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目（性・年代別）

—上位6項目—



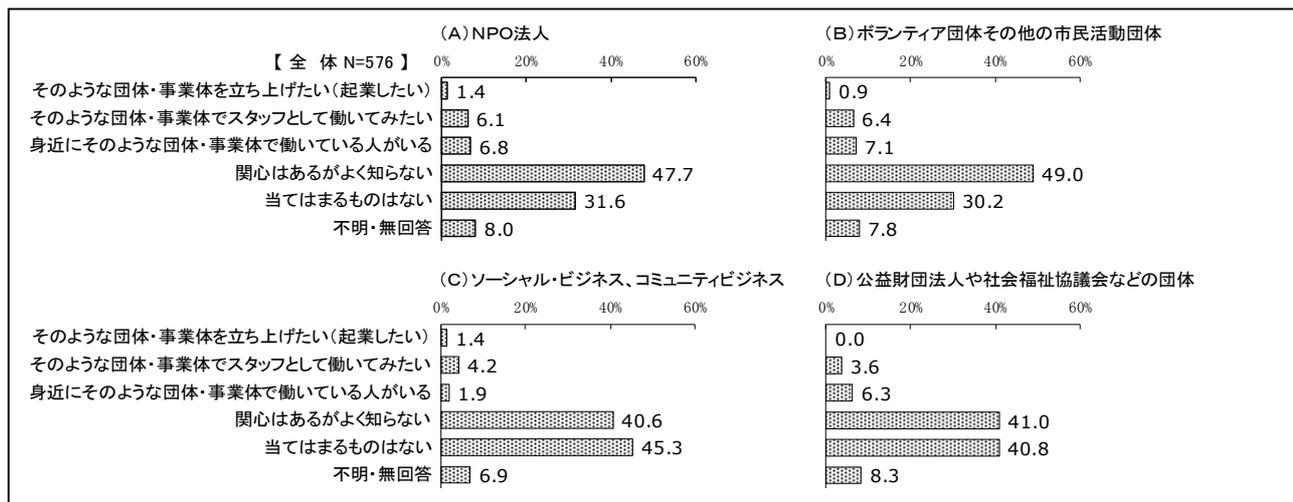
5 NPO法人などの市民活動団体への認識（30～49歳調査）

（1）働き方・就職等の意向

問30 以下のA～Dのような団体・事業体における働き方について、お気持ちに近いものはどれですか。（○はそれぞれヨコにいくつでも）

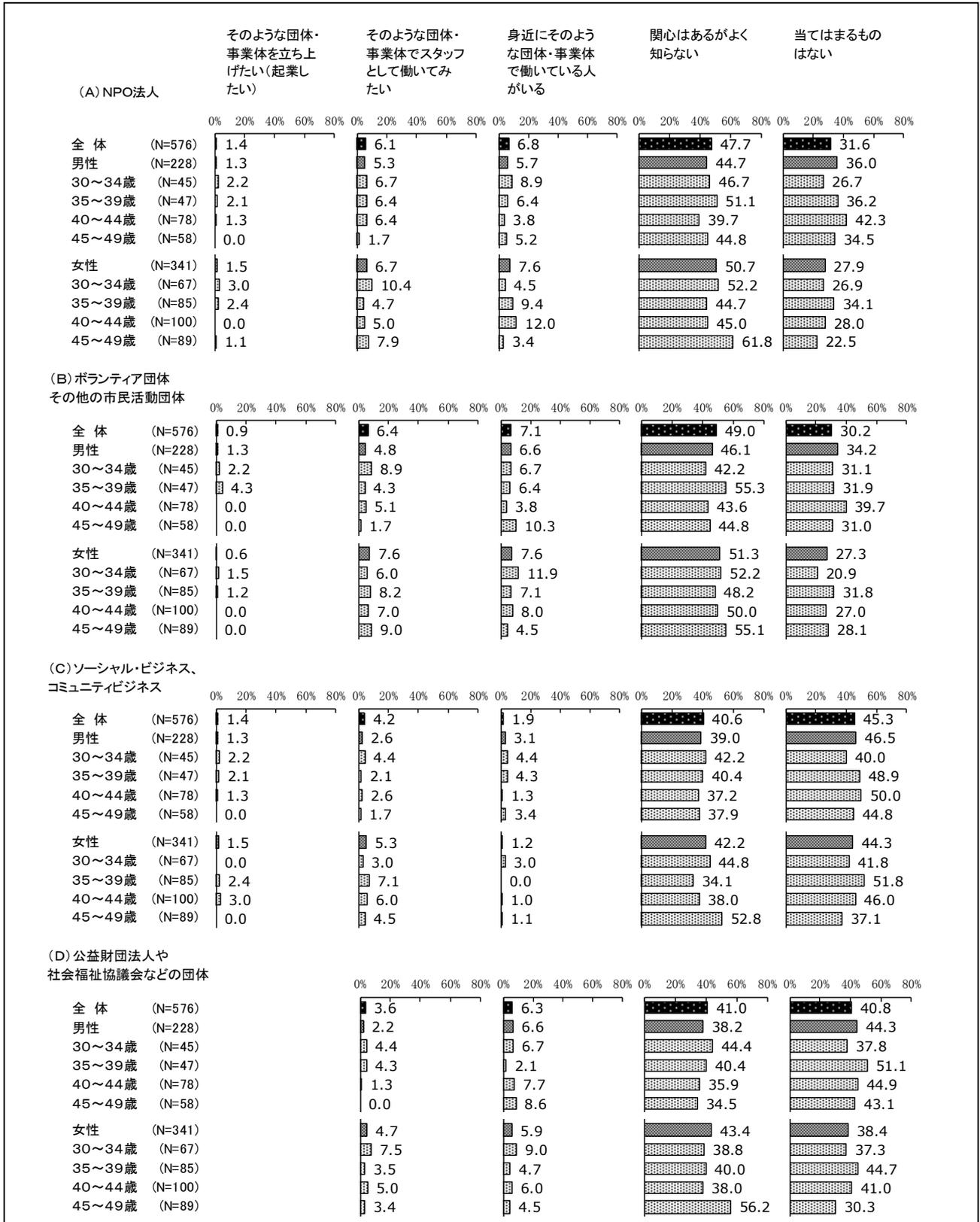
NPO法人などの市民活動団体における働き方について尋ねたところ、いずれの団体・事業体においても「関心はあるがよく知らない」が高くなっている。

図4-1 働き方・就職等の意向



性・年代別にみると、「(A) NPO法人」と「(B) ボランティア団体その他の市民活動団体」では「女性」の半数以上が「関心はあるがよく知らない」と回答しており、「男性35～39歳」も同様の傾向となっている。

図4-2 働き方・就職等の意向（性・年代別）

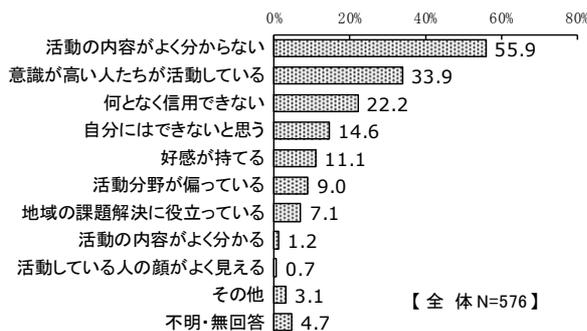


(2) NPO法人など市民活動団体の活動全般についての印象

問31 あなたは、NPO法人などの市民活動団体の活動全般について、どのような印象を持っていますか。（〇はいくつでも）

NPO法人など市民活動団体の活動全般についての印象は、「活動の内容がよく分からない」が55.9%で最も高く、次いで「意識が高い人たちが活動している」（33.9%）、「何となく信用できない」（22.2%）、「自分にはできないと思う」（14.6%）、「好感が持てる」（11.1%）となっている。

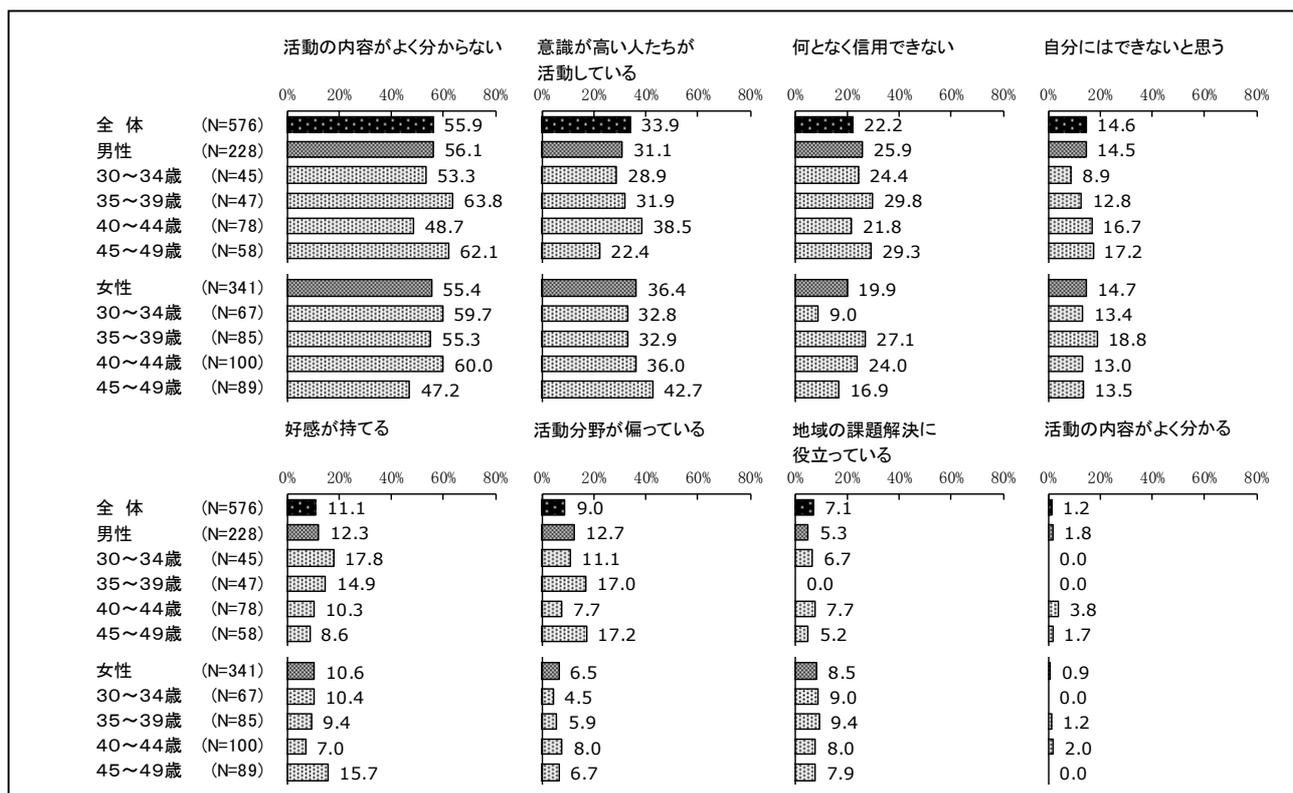
図4-3 NPO法人など市民活動団体の活動全般についての印象



上位8項目について性・年代別にみると、「活動の内容がよく分からない」では「男性35～39歳」（63.8%）、「男性45～49歳」（62.1%）、「女性40～44歳」（60.0%）、「女性30～34歳」（59.7%）が6割前後で他の年代よりも高くなっている。

また、「意識が高い人たちが活動している」では「女性」（36.4%）が「男性」（31.1%）よりも5ポイント高く、女性は年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

図4-4 NPO法人など市民活動団体の活動全般についての印象（性・年代別）—上位8項目—

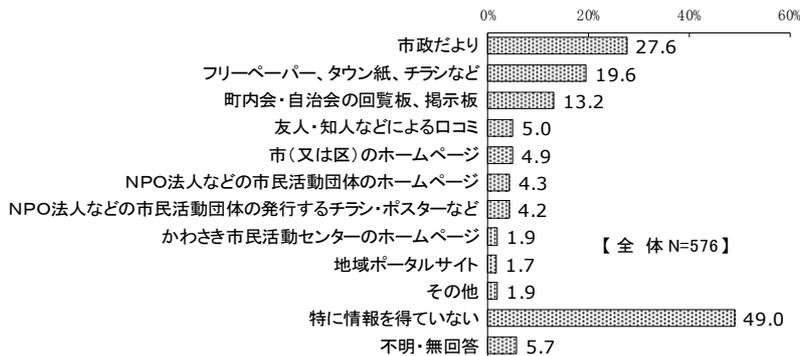


（3）NPO法人など市民活動団体に関する情報の入手先

問32 NPO法人などの市民活動団体に関する情報を、主にどのような媒体を通じて得ていますか。（〇は3つまで）

NPO法人など市民活動団体に関する情報の入手先は、「市政だより」(27.6%)、「フリーペーパー、タウン紙、チラシなど」(19.6%)、「町内会・自治会の回覧板、掲示板」(13.2%)と続いている。一方、「特に情報を得ていない」が49.0%で最も高くなっている。

図4-5 NPO法人など市民活動団体に関する情報の入手先



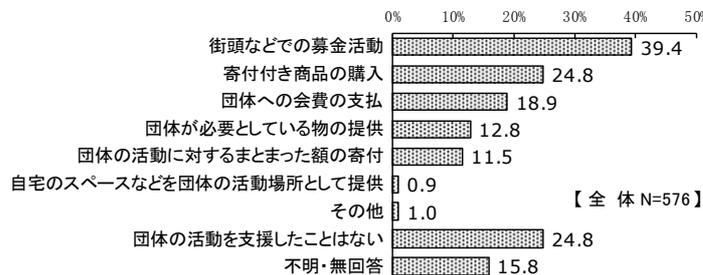
6 寄付などによる団体の活動の支援（30～49歳調査）

（1）行った経験のある団体の活動への支援

問33（ア）以下のA～Hのような団体の活動への支援で、あなたがこれまでに行った経験があるものはどれですか。（〇はいくつでも）

寄付などによる団体の活動への支援で、これまでに行った経験があるものについては、「街頭などでの募金活動」が39.4%で最も高く、次いで「寄付付き商品の購入」(24.8%)となっている。一方、「団体の活動を支援したことはない」が24.8%となっている。

図5-1 行った経験のある団体の活動への支援

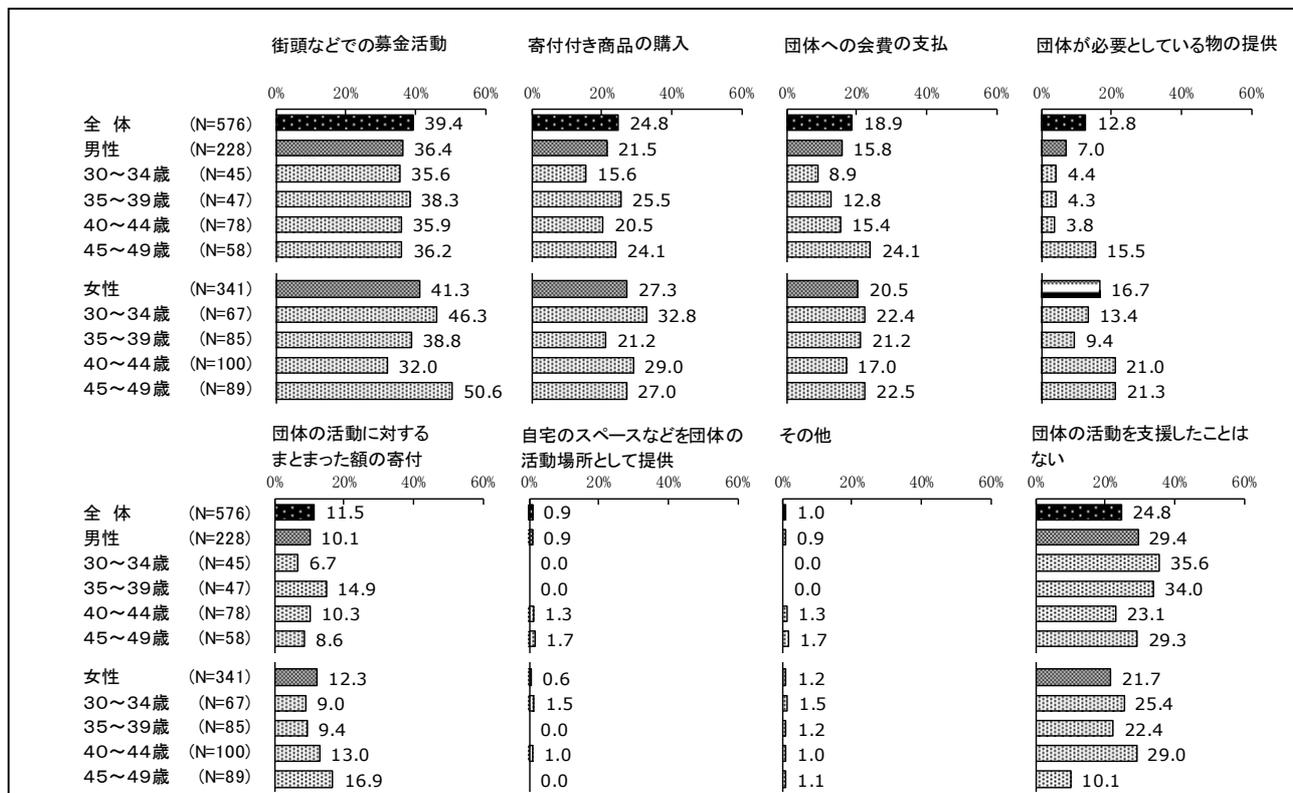


第2章 調査結果の詳細（30～49歳調査）

性・年代別にみると、「街頭などでの募金活動」、「寄付付き商品の購入」、「団体への会費の支払」の上位3項目では、「女性」が「男性」よりも5～6ポイント高くなっている。

一方、「団体の活動を支援したことはない」では「男性」（29.4%）が「女性」（21.7%）よりも8ポイント高く、男性30代は3割台で他の年代よりも高くなっている。

図5-2 行った経験のある団体の活動への支援（性・年代別）



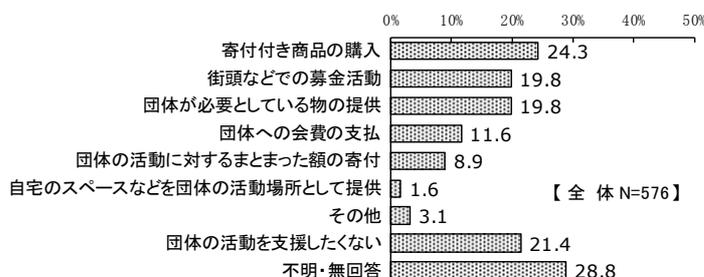
(2) 今後行いたい団体の活動への支援

問33 (イ) また、今後、行いたい団体の活動への支援はどれですか。(○はいくつでも)

今後行いたい団体の活動への支援は、「寄付付き商品の購入」（24.3%）、「街頭などでの募金活動」（19.8%）、「団体が必要としている物の提供」（19.8%）と続いている。

一方、「団体の活動を支援したくない」は21.4%となっている。

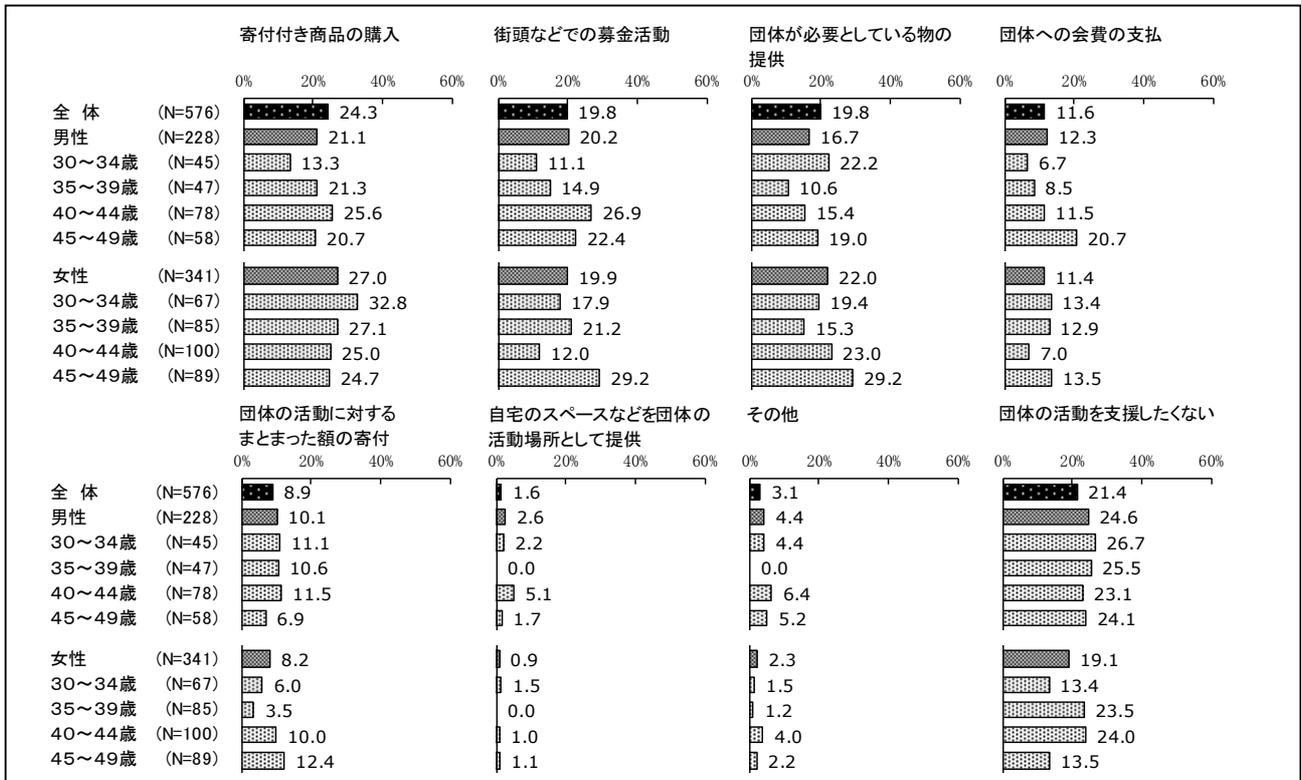
図5-3 今後行いたい団体の活動への支援



性・年代別にみると、「寄付付き商品の購入」では「女性」（27.0%）が「男性」（21.1%）よりも6ポイント高く、女性は年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

また、「団体の活動を支援したくない」では「男性」（24.6%）が「女性」（19.1%）よりも6ポイント高く、男性は概ね年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

図5-4 今後行いたい団体の活動への支援（性・年代別）

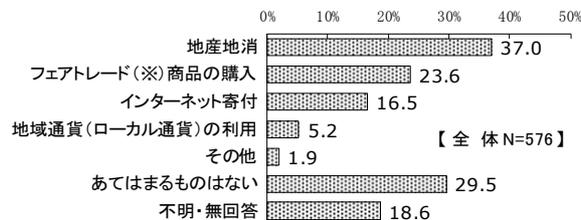


(3) 経験したことがある社会貢献

問34 (ア) 以下のA～Fのような社会貢献の形態で、あなたがこれまでに経験したことがあるものはどれですか。(〇はいくつでも)

これまでに経験したことがある社会貢献の形態については、「地産地消」が37.0%で最も高く、次いで「フェアトレード商品の購入」(23.6%)、「インターネット寄付」(16.5%)となっている。

図5-5 経験したことがある社会貢献



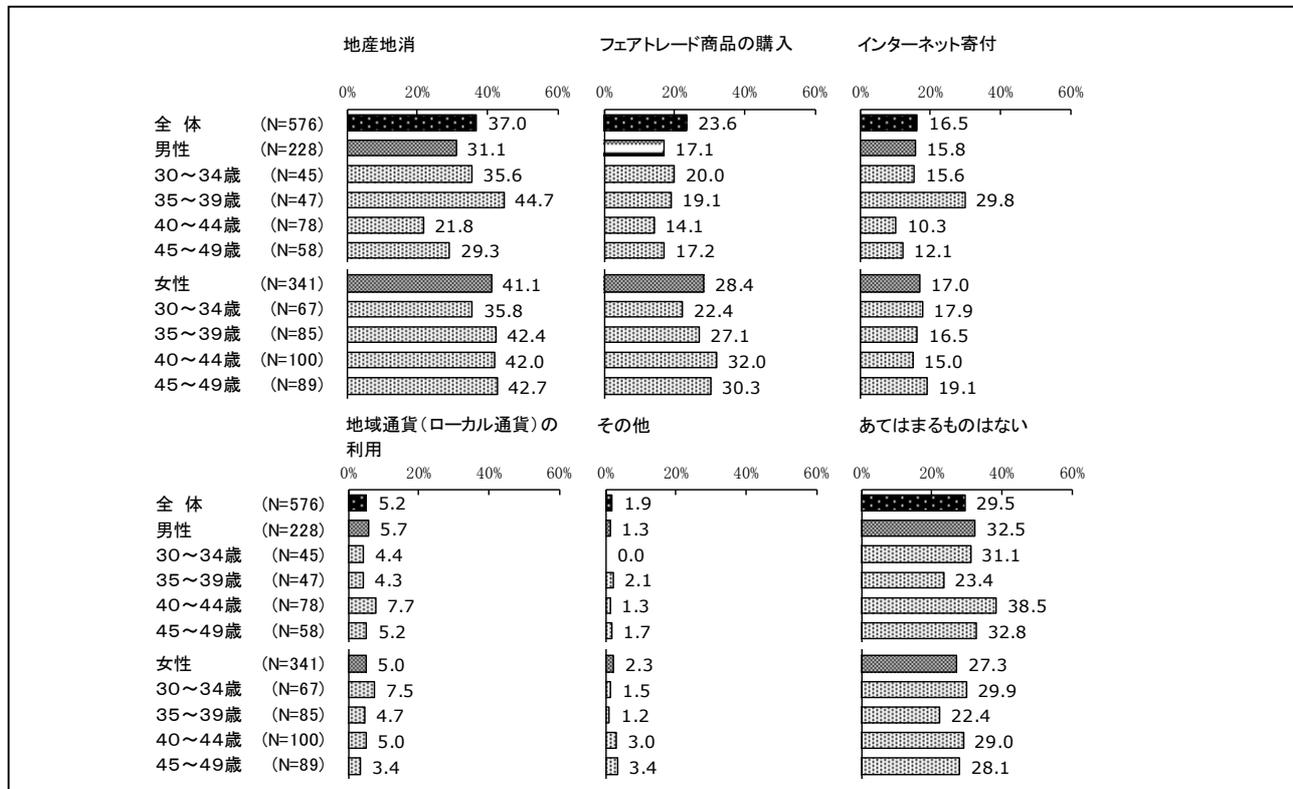
※発展途上国の原料や製品を、適正な価格で継続的に購入することで、立場の弱い人たちの自立と生活を改善することを目指す取組

第2章 調査結果の詳細（30～49歳調査）

性・年代別にみると、「地産地消」と「フェアトレード商品の購入」の上位2項目では、「女性」が「男性」よりも10～11ポイント高く、それぞれ女性は概ね年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

また、「インターネット寄付」では「男性35～39歳」が29.8%で最も高くなっている。

図5-6 経験したことがある社会貢献（性・年代別）

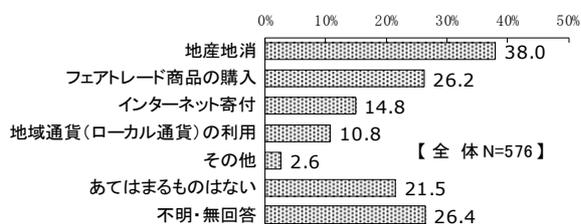


(4) 今後取り組みたい社会貢献

問34 (イ) また、今後、取り組みたい社会貢献の形態はどれですか。(○はいくつでも)

今後取り組みたい社会貢献の形態については、「地産地消」が38.0%で最も高く、次いで「フェアトレード商品の購入」(26.2%)、「インターネット寄付」(14.8%)となっている。

図5-7 今後取り組みたい社会貢献

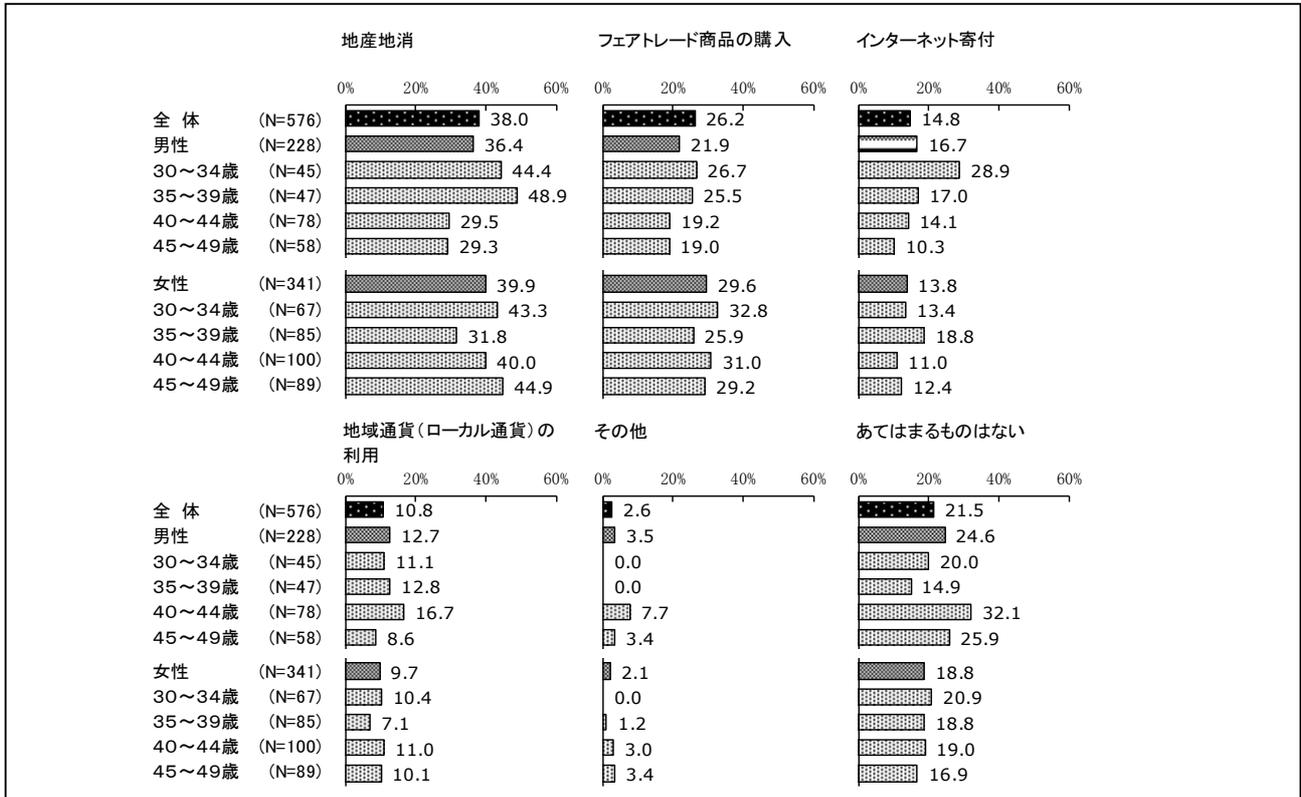


性・年代別にみると、「地産地消」では、男性30代が4割台で高くなっている。

「フェアトレード商品の購入」では「女性」（29.6%）が「男性」（21.9%）よりも8ポイント高く、「女性30～34歳」、「女性40～44歳」では3割を超えている。

また、「インターネット寄付」では男性の年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられ、「男性30～34歳」が28.9%で最も高くなっている。

図5-8 今後取り組みたい社会貢献（性・年代別）



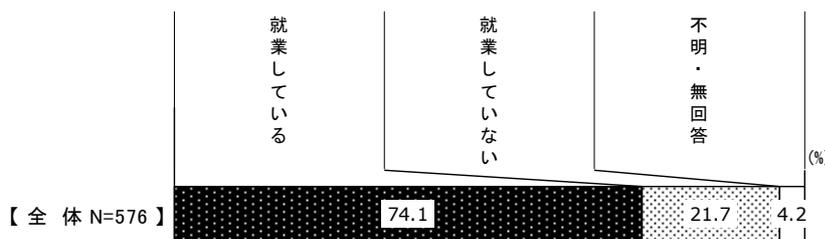
7 余暇・自由時間・趣味などに関する考え方（30～49歳調査）

(1) 就業状況

問35 あなたの就業状況はどれにあてはまりますか。
(ア) 就業状況 (○は1つ)

就業状況は、「就業している」が74.1%を占め、「就業していない」は21.7%となっている。

図6-1 就業状況

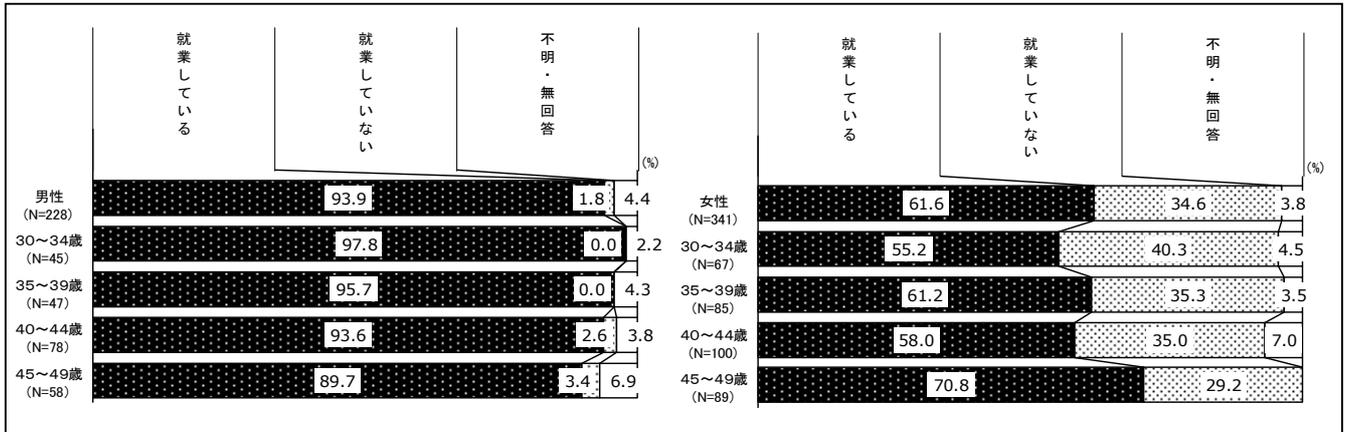


第2章 調査結果の詳細（30～49歳調査）

性・年代別にみると、「就業している」割合は「男性」（93.9%）が「女性」（61.6%）よりも32ポイント高く、男性は年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

また、女性は「女性45～49歳」の70.8%が「就業している」と回答している。

図6-2 就業状況（性・年代別）

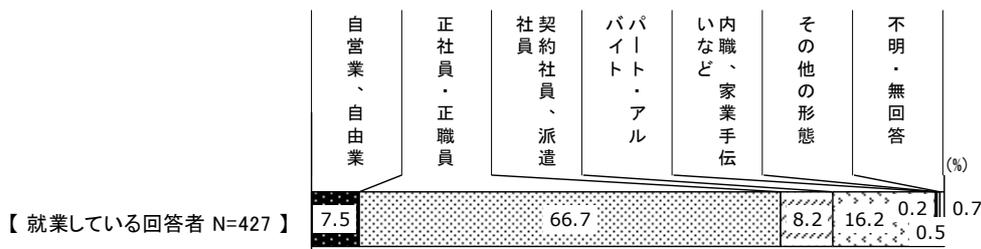


(2) 就業形態

問35 あなたの就業状況はどれにあてはまりますか。
 (イ) 就業の形態 (○は1つ)
 ※就業している回答者が対象

就業していると回答した人に就業形態を尋ねたところ、「正社員・正職員」が66.7%で最も高くなっている。

図6-3 就業形態

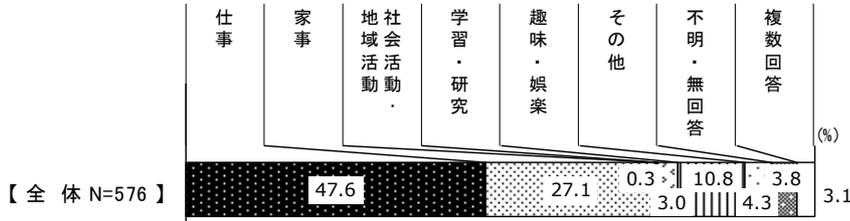


(3) 日常生活で最も力を入れている活動

問36 次の項目の中で、あなたが日常生活で最も力を入れている活動はどれですか。（○は1つ）

日常生活で最も力を入れている活動については、「仕事」が47.6%で最も高く、「家事」が27.1%で続いている。

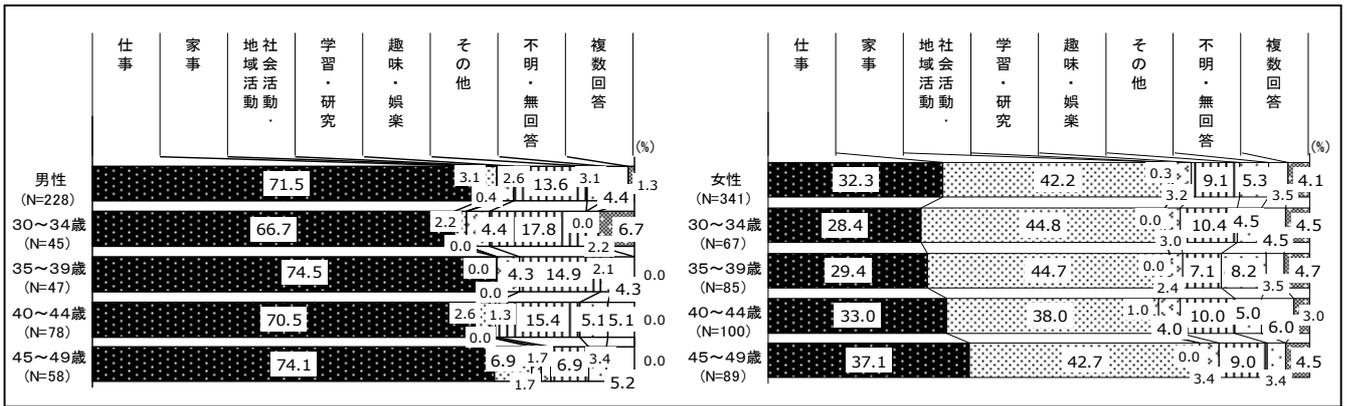
図6-4 日常生活で最も力を入れている活動



性・年代別にみると、「男性」の71.5%が「仕事」と回答しており、「女性」は42.2%が「家事」、32.3%が「仕事」と回答している。

また、女性は年代が上がるにつれて「仕事」と回答する割合が高くなる傾向がみられる。

図6-5 日常生活で最も力を入れている活動（性・年代別）

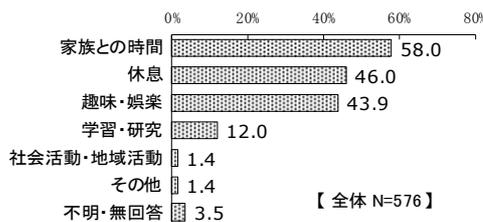


(4) 日常的な自由時間の使い方（余暇活動）

問37 あなたの日常的な自由時間の使い方（余暇活動）は次のどれですか。（○はいくつでも）

日常的な自由時間の使い方（余暇活動）については、「家族との時間」が58.0%で最も高く、次いで「休息」（46.0%）、「趣味・娯楽」（43.9%）となっている。

図6-6 日常的な自由時間の使い方（余暇活動）

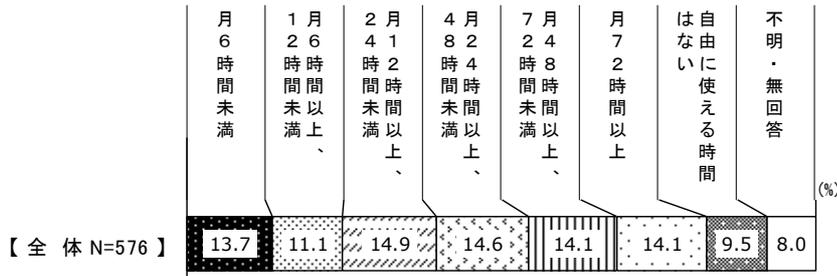


(5) 余暇活動に自由に使える時間

問38 あなたが、日常的に趣味・娯楽その他の余暇活動に自由に使える時間はどれくらいありますか。() 内に、あてはまる数字をご記入ください。
月に () 時間

日常的に趣味・娯楽その他の余暇活動に自由に使える時間を尋ねたところ、「月12時間以上、24時間未満」が14.9%で最も高く、次いで「月24時間以上、48時間未満」(14.6%)、「月48時間以上、72時間未満」(14.1%)、「月72時間以上」(14.1%)となっている。

図6-7 余暇活動に自由に使える時間



(6) 活動にかけている金額（年間）

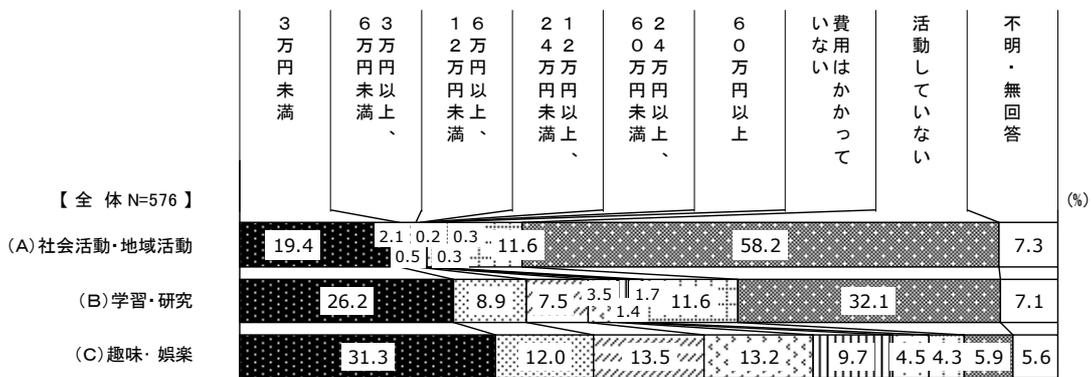
問39 あなたは、以下のA～Cの3項目の活動に、年間どのくらいのお金をかけていますか。(〇はそれぞれヨコに1つつ)

(A)「社会活動・地域活動」、(B)「学習・研究」、(C)「趣味・娯楽」の活動に年間どのくらいのお金を支出しているか尋ねたところ、(A)「社会活動・地域活動」では「活動していない」が58.2%で最も高くなっている。

(B)「学習・研究」では「活動していない」が32.1%で最も高く、「3万円未満」が26.2%で続いている。

(C)「趣味・娯楽」では、「活動していない」(5.9%)と「不明・無回答」(5.6%)を除く88.5%が何らかの趣味・娯楽活動を行っており、さらに「費用はかかっていない」(4.3%)を除いた84.2%が支出を伴う活動をしていることがわかる。

図6-8 活動にかけている金額（年間）



性・年代別にみると、(A)「社会活動・地域活動」においては男女ともに「活動していない」割合が高く、(B)「学習・研究」においては男性で概ね年代が上がるにつれて支出率が低くなる傾向がみられる。

(C)「趣味・娯楽」においては「男性35～39歳」と「女性45～49歳」で支出率が高くなっている。

図6-9 (A) 社会活動・地域活動にかけている金額（年間）（性・年代別）

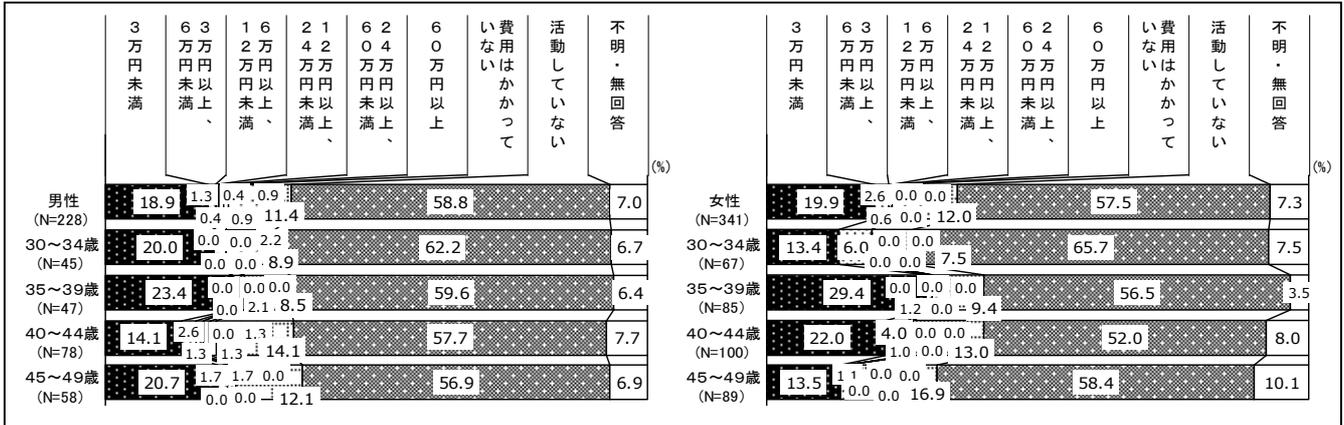


図6-10 (B) 学習・研究活動にかけている金額（年間）（性・年代別）

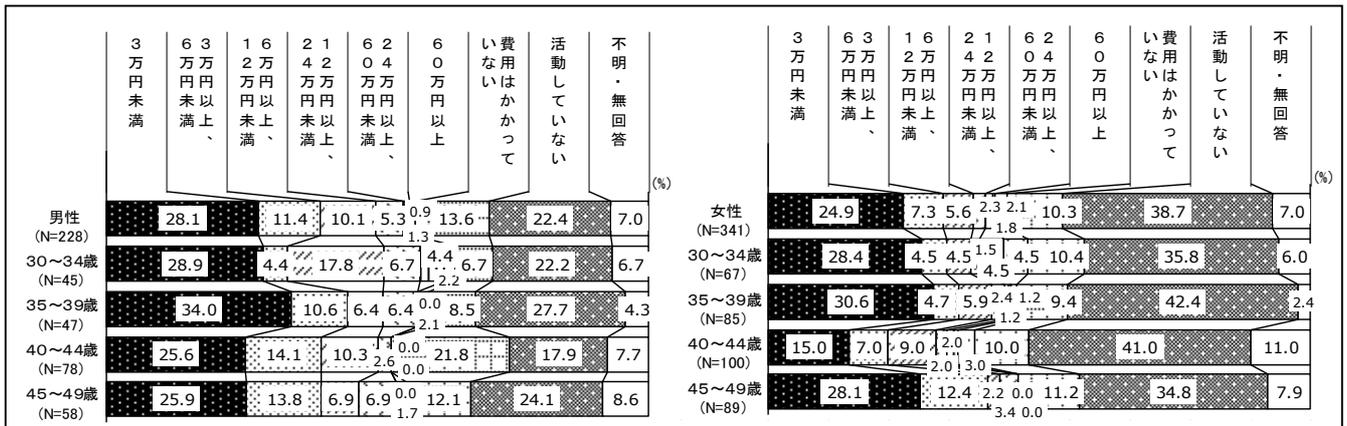
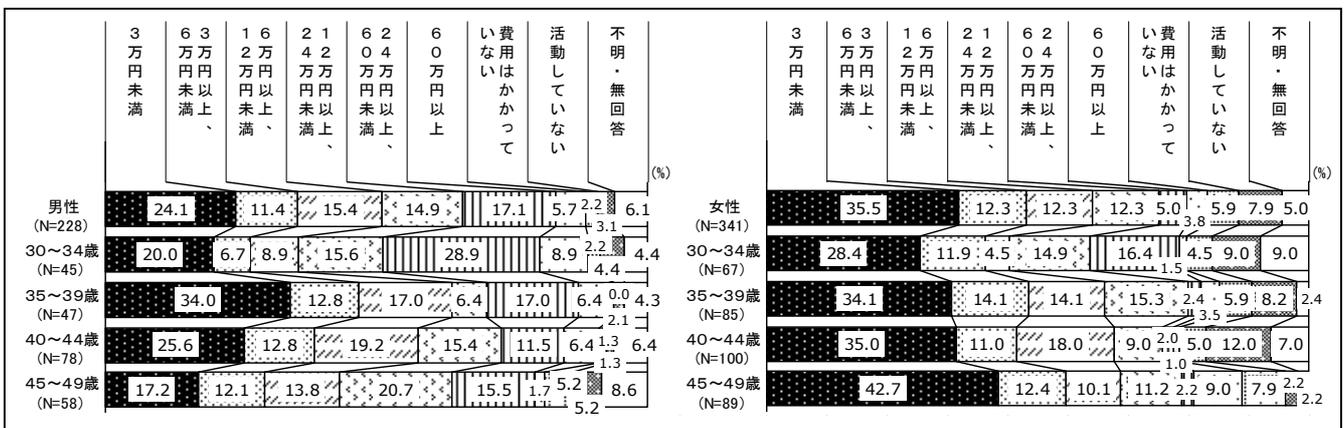


図6-11 (C) 趣味・娯楽活動にかけている金額（年間）（性・年代別）

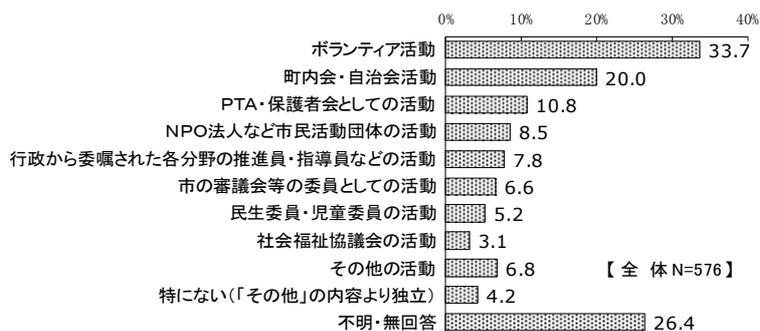


(7) 自由時間が増えたらしてみたい活動

問40 あなたは、自由時間が増えたら、してみたいと思う活動はありますか。
次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

自由時間が増えた場合にしてみたいと思う活動は、「ボランティア活動」が33.7%で最も高く、次いで「町内会・自治会活動」(20.0%)、「PTA・保護者会としての活動」(10.8%)、「NPO法人など市民活動団体の活動」(8.5%)となっている。

図6-12 自由時間が増えたらしてみたい活動

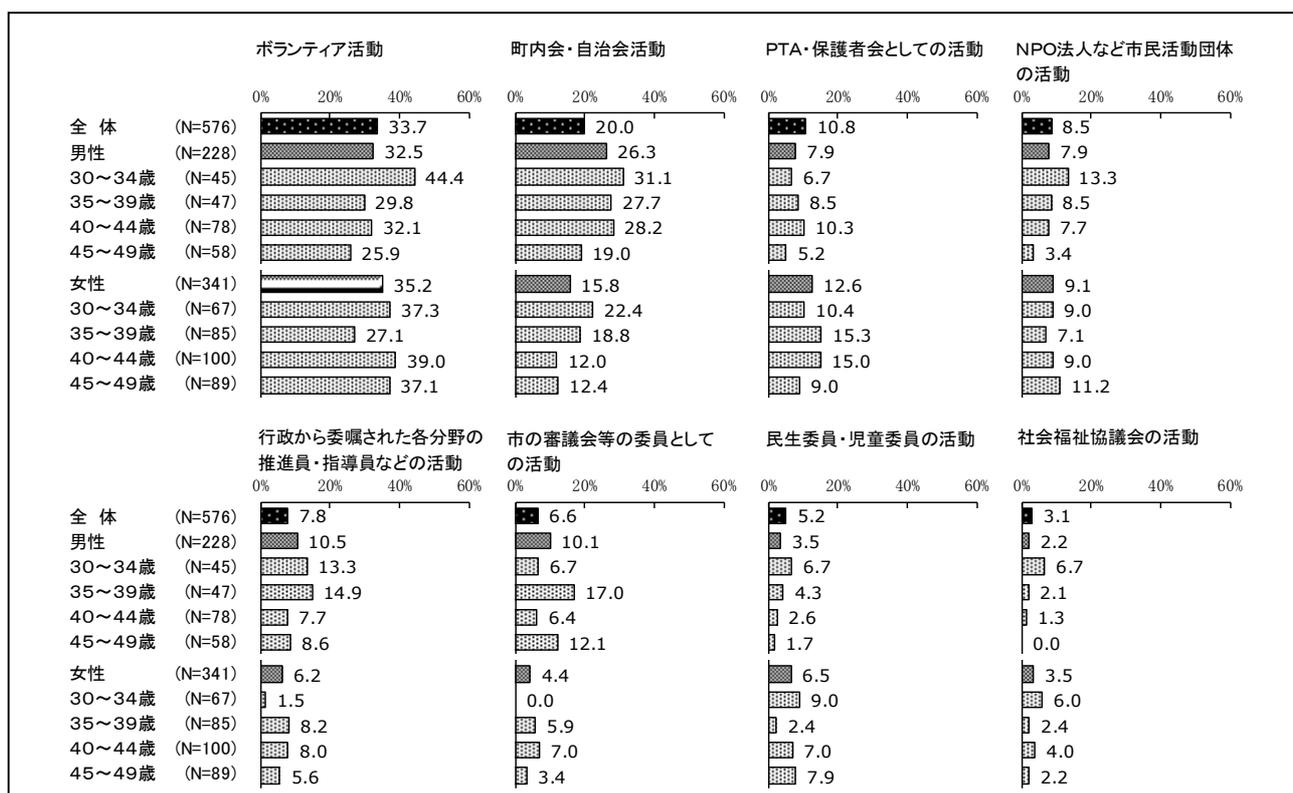


上位8項目について性・年代別にみると、「ボランティア活動」では「男性30～34歳」が44.4%で最も高くなっている。

「町内会・自治会活動」では「男性」(26.3%)が「女性」(15.8%)よりも11ポイント高く、男女ともに概ね年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

また、「PTA・保護者会としての活動」では「女性」(12.6%)が「男性」(7.9%)よりも5ポイント高くなっている。

図6-13 自由時間が増えたらしてみたい活動（性・年代別）—上位8項目—



8 自由記述欄の内容（30～49歳調査）

問42 地域における課題の解決に向けて、市民や事業者、行政などの多様な主体が協力・連携して取り組んでいくことについて、あなたはどのように考えますか。

(1) 意見の内訳

分 類	意見数 (のべ)
ア 趣旨に賛同する意見	137
イ 参加のあり方に関する意見 (ア) 一部だけでなく幅広い意見や参加を求める必要性 (イ) 参加しやすい環境づくりや参加しづらい層の参加促進への工夫 (ウ) その他参加のあり方について	38
ウ 連携・協力を担う主体の役割に関する意見 (ア) 行政の役割や機能の重要性 (イ) 市民や地域の役割の重要性 (役割への期待) (ウ) 地域の事業者やNPOなどの役割の重要性 (エ) その他連携・協力のあり方	46
エ 連携・協力に向けての課題に関する意見 (ア) 取り組みについての広報・情報発信・交流が必要 (イ) それぞれの主体の目標・活動内容や役割分担・責任の明確化が必要 (ウ) 市民がもっと当事者意識を持つことが必要 (エ) その他連携・協力に向けての提案など	76
オ その他の意見	101
30～49歳調査 計	398

(2) 主な意見

ア 趣旨に賛同する意見

- ・より多くの人に関わることは、良いことだと思う。
- ・行政だけでなくさまざまな主体が地域の発展のために連携することは重要だと思う。
- ・地域の課題の解決のためには、多様な主体に関わる必要がある。

イ 参加のあり方

(ア) 一部だけでなく幅広い意見や参加を求める必要性

- ・一部の人の意見に偏らないよう、できる限り多くの意見を聴いてほしい。
- ・多くの市民が参加できるよう、開放的なものにしてほしい。
- ・様々な立場の人が協力することで、偏らない問題解決方法が見出せるのではないかな。

(イ) 参加しやすい環境づくりや参加しづらい層の参加促進への工夫

- ・仕組みを分かりやすくして、多様な世代の人が興味を持てるようにしてほしい。

第2章 調査結果の詳細（30～49歳調査）

- ・事業者の取組として、ボランティアで休暇を取得しやすくするなどしてほしい。
- ・単身世帯や夫婦のみの世帯、転入者、高齢者世帯などを、地域の輪へ取り込むための働きかけやきっかけづくりが大事。

（ウ）その他参加のあり方について

- ・利益目的が感じられるような参加は望ましくない。
- ・参加する場合、参加する側の目的と結果が見えるべき。

ウ 連携・協力を担う主体の役割

（ア）行政の役割や機能の重要性

- ・多様な主体が連携・協力するために、まとめ役としての行政の役割が重要。
- ・行政は市民の意見、情報を集め、市民に提供してほしい。
- ・行政がサービスを提供するのではなく、市民や事業者が活動できるような環境づくり、地域への働きかけをして欲しい。

（イ）市民や地域の役割の重要性（役割への期待）

- ・実際に地域に住む人たちの協力が欠かせない。
- ・マンションが多い地域は、管理組合を巻き込んで活動すると広がりが出る。

（ウ）地域の事業者やNPOなどの役割の重要性

- ・事業者や市民が参加し、そのノウハウを活かすことで効率的になると思う。
- ・個人の力では限界があるため、事業者やNPOなどの活躍を期待したい。

（エ）その他連携・協力のあり方

- ・主体は地域住民であるが、課題解決に向けて行政の関わりや支援が必要。
- ・行政が音頭をとって、活動の主体は地域住民が行うべき。

エ 連携・協力に向けての課題

（ア）取り組みについての広報・情報発信・交流が必要

- ・活動内容等の情報公開やPRが必要。
- ・地域への呼びかけなどにより活動を活発化させるべき。
- ・インターネットの活用により、課題に対する市民の意見を募集するなど、情報共有に向けた体制を確立するべき。

（イ）それぞれの主体の目標・活動内容や役割分担・責任の明確化が必要

- ・課題等の内容、スケジュール、取り組むべき主体などを明確にしてほしい。
- ・行政と市民との責任の範囲の明確化が必要だと思う。
- ・取組内容や経理には透明性が求められる。

(ウ) 市民がもっと当事者意識を持つことが必要

- ・市民が問題意識を持つことは意義がある。
- ・地域住民が自らの課題と認識し、解決策に取り組もうとする意識が重要である。

(エ) その他連携・協力に向けての提案など

- ・子育て、高齢者福祉など、分野ごとにテーマ性を持って取り組むべき。
- ・市民、事業所、行政などをコーディネートするため、相談窓口を一本化する必要がある。

オ その他の意見

- ・課題が不明確であるとの意見
- ・連携・協力は難しい、参加できない、きっかけがないとの意見
- ・機会があれば参加したい、協力したいとの意見
- ・その他感想やアンケートの内容等に関する意見 など

